

# 矢部貞治著作目録

松田 義男 編

改訂 2019年 5月 14日

2004年 10月 11日

## 目次

1. 著書
2. 共著
3. 高等学校教科書
4. 新聞・雑誌掲載
5. 評論集初出

## 凡例

- \* 矢部貞治(1902-1967)の著作を、1.著書、2.共著、3.高等学校教科書、4.論文等(新聞・雑誌掲載)、5.座談会に区分し、それぞれ年次順に配列し、参考までに6.評論集初出を掲げた。
- \* 著書の再版・増補改訂版は、原則として、初版に一括して[ ]に注記した。
- \* 叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をく >に示した。
- \* 編著・共著・共訳・監修の別については、[ ]に示した。
- \* 新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- \* 連載評論で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- \* 雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- \* 新聞・雑誌における常設欄・特集・アンケートなどは[ ]内に「」で示した。特集・アンケートへの寄稿が無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とした。
- \* 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- \* 東京本社発行版と大阪本社発行版のある全国紙、たとえば『朝日新聞』でいえば、大阪本社発行版のみの場合『[大阪]朝日新聞』とし、東京本社発行版のみの掲載の場合と、東京および大阪本社発行版で掲載されていても表題・掲載日が同一の場合『朝日新聞』と記した(東京本社発行版と表題・掲載日が異なる場合は必要に応じて注記した)。
- \* 無署名、ペンネームについては、<>に注記した。  
『矢部貞治日記』(以下、『日記』と略)によると、1948年から1951年にかけて『静岡新聞』の「東京だより」欄へ執筆しているが、同欄はすべて無署名であり、多くは掲載日を特定できない。本目録では『日記』から掲載日が特定できる11篇のみを採録した。その他の無署名の執筆としては、『新政経ニュース』の「デモクラシー手帖」、「デモクラシー教室」欄がある(『日記』1952年10月10日、12月3日、1953年4月21日ほか参照)。ペンネーム(木下紋太、TX)による執筆としては『毎日新聞[夕刊]』の「無人機」欄(1953年3月～1954年2月)がある(『日記』1953年3月14日ほか参照)。
- \* 編者未見の著作については、表題冒頭に\*を付した。
- \* その他、適宜、注記事項を[ ]に示した。

本著作目録の作成に際しては、国立国会図書館、政策研究大学院大学図書館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所・同政経学部教員図書室、東京大学総合図書館・同社会科学研究所・同東洋文化研究所・同大学院経済学研究科経済学部図書館、慶應義塾大学三田メディアセンター、明治大学中央図書館、同志社大学人文科学研究科、神戸大学社会科学系図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、農林水産省農林水産政策研究所図書館、日本近代文学館、東京都立中央図書館、東京市政調査会附属市政専門図書館、鳥取県立図書館、岡山県立図書館、神戸市立中央図書館、青森県立図書館、京都府立総合資料館、アジア経済研究所より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

## 1. 単行書（訳書含む）

### 1932（昭和7）年

『政治学 昭和八年度講義』[謄写版全四冊(上・中・下1、2)]啓明社、9月24日～1933年3月6日

### 1933（昭和8）年

『政治学講義要旨－現代政治危機の諸問題－』矢部貞治、5月28日

### 1934（昭和9）年

『政治学 昭和九年度講義』[謄写版全四冊]啓明社、1934年4月18日～5月5日

### 1937（昭和12）年

『政治学講義要旨－現代政治危機の諸問題』弘文堂、9月16日

### 1938（昭和13）年

『政治学（三）』帝大プリント連盟、1月27日[1937年12月までの東京帝国大学法学部・経済学部講義]

『欧洲政治原理講義案－現代欧州政治危機の諸問題－』（非売品）5月15日

『政治学（二）』帝大プリント連盟、12月20日[昭和13年度東京帝国大学法・経済学部講義]

### 1939（昭和14）年

『ナチス・ドイツ憲法論』岩波書店、5月10日[オットー・ケルロイター著、田川博三との共訳：  
Otto Koellreutter, *Deutsches Verfassungsrecht: ein Grundriss*, 1938]

『最近日本外交史』＜太平洋問題資料 5＞日本国際協会、9月1日[増補改訂版：日本国際協会、1940年5月8日]

### 1940（昭和15）年

『政治機構改新大綱』昭和研究会、6月25日[『現代史資料 44 国家総動員 2』（みすず書房、1974年）収録。『矢部貞治日記』の1940年8月14日、参照]

『新体制の基本構想』海軍省調査課、8月20日[『現代史資料 44 国家総動員 2』（みすず書房、1974年）収録]

### 1941（昭和16）年

『政治力の結集強化に関する方策』＜海調研究資料（特）A第7号＞海軍省調査課、5月6日[『現代史資料 44 国家総動員 2』（みすず書房、1974年）、『昭和社會經濟史資料集成』第13巻(大東文化大学東洋研究所、1988年)収録]

『帝国国防国家論』＜海調研究資料 A 第7号＞海軍省調査課、6月序[『矢部貞治日記』の1941年10月4日、参照]

『臨戦政治態勢の諸問題』＜海調研究資料 A 第 10 号＞海軍省調査課、8 月 22 日[『昭和社会経済史料集成』第 14 卷(大東文化大学東洋研究所、1989 年)収録]

### 1942 (昭和 17) 年

\* 『政治学 上 講義プリント』帝大プリント連盟編・刊、3 月[昭和 16 年 4 月～10 月東京帝国大学法学部経済学部講義]

### 1943 (昭和 18) 年

『カー著「平和の諸条件」に就て』外務省政策局第四課、4 月

『独逸ノ戦争目的』＜海調研究資料 A 第 16 号＞海軍省調査課、6 月 22 日[『昭和社会経済史料集成 第 20 卷』(大東文化大学東洋研究所、平成 7 年)収録]

### 1945 (昭和 20) 年

『新秩序の研究』弘文堂書房、4 月 20 日

### 1946 (昭和 21) 年

『“デモクラシー”とは?』＜ラジオ・パンフレット 1＞日本放送出版協会、1 月 5 日

『近衛新体制についての手記』＜研究資料 104＞内外法政研究会、1 月 29 日筆[『現代史資料 44 国家総動員 2』(みすず書房、1974 年)収録]

『民主主義と天皇制』協同出版社、4 月 15 日

『民主主義と警察』＜教養資料 1 号＞埼玉県警察部、7 月[6 月 26 日講話]

『民主主義の理想』警視庁自警会、12 月 1 日

### 1947 (昭和 22) 年

『新憲法を活かす途』[内務省警保局編]警察協会、2 月 25 日[1946 年 12 月憲法特別講習会講演速記於中央警察学校]

『欧州政治原理講義案』中央警察学校校友会、3 月 31 日

『民主政機構の基礎原理』＜教養文庫＞弘文堂書房、4 月 25 日[＜教養文庫＞から独立させて再刊：弘文堂、1949 年 4 月 15 日]

『政治学』海口書店、11 月 30 日

『協同主義の政治理論』＜協同主義 別輯 1＞協同主義協会、12 月 20 日

### 1948 (昭和 23) 年

『国際情勢から見た現在の政局』土曜会、1 月 31 日[謄写版]

『日本民主主義の課題』＜国民平和叢書 6＞国民平和協会、7 月 20 日[「日本民主主義の課題」と「保守政  
党の課題」を収録]

『祖国に連る労働者の道』＜労働民主シリーズ 4＞労働出版部、10 月 10 日

## 1949 (昭和 24) 年

- 『民主主義の本質と価値』弘文堂、4月30日
- 『世界政治情勢と日本の進路』〈労働民主シリーズ 12〉労働出版部、5月25日
- 『民主主義の基本問題』〈民主社会シリーズ 2〉勤労時報社、7月1日
- 『政治学』〈勁草全書〉勁草書房、10月10日[新版：勁草書房、1981年]
- 『民主主義の基本概念』武田薬品工業株式会社、11月20日
- 『民主主義の原理』立花書房、12月15日

## 1950 (昭和 25) 年

- 『コミンフォルムと日本共産党』〈教養資料〉いしかわ編集委員会、1月28日
- 『民主主義と警察』立花書房、3月1日[評論集]
- 『ボルシェヴィズムの政治学的批判』労働文化社、4月15日[ハンス・ケルゼン著、訳書:Hans Kelsen, *The political theory of Bolshevism : a critical analysis*]、[『ハンス・ケルゼン著作集 2 マルクス主義批判』(慈学社出版、2010年)収録]

## 1951 (昭和 26) 年

- 『国際情勢と日本の立場』〈警察教養文庫〉立花書房、3月5日
- 『政治学入門』〈アテネ新書 35〉弘文堂、11月15日[復刊：〈講談社学術文庫〉講談社、1977年]

## 1952 (昭和 27) 年

- 『近衛文麿』上・下、弘文堂、5月5日[復刊：読売新聞社、1976年7月30日、〈歴代総理大臣伝記叢書 第25巻〉ゆまに書房、2006年12月]
- 『独立日本の進路』〈教養資料 20〉福岡警察管区本部警務部教養課、5月10日[『教養資料特輯』(福島警察管区本部警務部警務課、1952年8月1日)収録]
- 『民主主義とは何か』〈PHP 文庫 2〉新政治経済研究会、6月25日
- 『国民よとらわれの主権者となるなかれ』島根県公明選挙推進連盟、8月19日
- \* 『民主社会主義の理念』〈民社連文庫〉民主社会主義連盟、月日未詳

## 1953 (昭和 28) 年

- 『国家・民族・階級』世界民主出版部、11月10日[復刊：〈教養青年文庫〉今日の問題社、1962年12月1日。改題復刊：『政治・民族・国家の話』〈講談社学術文庫〉講談社、1980年9月10日]

## 1954 (昭和 29) 年

- 『民主主義の基本問題』弘文堂、2月15日[既刊の『民主主義の本質と価値』を第一部に、『民主政機構の基礎原理』を第二部に収録]
- 『地方制度の改革について』[1954年2月16日第16回文化講座(於府会議事堂)]〈大阪府会文化講座 第16集〉、大阪府会事務局調査課編・刊、3月31日
- 『自主憲法の基本方向』〈憲法調査会研究叢書 2〉憲法調査会、8月3日

『日本国憲法に関する考察』＜憲法調査資料4＞改進黨憲法調査会、8月5日

『近代政党の性格と理念』新政治力結集研究会、10月25日

『多数決の原理と運用』＜労働新書＞日本労政協会、11月25日

『近代政党と協同主義』[宇田政治経済研究所編]協同主義研究会、12月1日

### 1955（昭和30）年

『自主憲法を持つ』＜憲法調査会研究叢書5＞5月25日

『日本政治の方向－自主再建の基本的構想－』＜時局懇話会パンフレット14＞時局懇話会、5月31日

『協同主義の政治・国家論』＜協同主義叢書＞協同組合懇話会、10月20日

### 1956（昭和31）年

『私はかく教育する』拓殖大学、4月20日

『憲法改正問答 なぜ憲法は改正せねばならぬか』綜合文化社、7月30日

### 1957（昭和32）年

『公共の哲学』時事通信社、7月30日[ウォルター・リップマン著、訳書:Walter Lippmann, *The public philosophy*]

### 1958（昭和33）年

『最近の政治動向』＜講演シリーズ41＞内外情勢調査会、1月28日

『民主主義の政治』[地方自治協会編]政経時説社、3月25日[講演2篇「民主主義の理論と実際」、「民主主義の理念と現状」収録]

『「共存」を挑まれて－イギリスの立場－』＜時事新書＞時事通信社、5月1日[ヒュー・ゲイツケル著、訳書: Hugh Gaitskell, *The Challenge of coexistence*]

『近衛文麿』＜三代宰相列伝15＞時事通信社、6月1日[新装版:＜日本宰相列伝15＞時事通信社、1986年2月15日。復刊:『近衛文麿 誇り高き名門宰相の悲劇』＜INF文庫＞光人社、1993年10月13日]

『日本の政党』＜銀行文庫＞全国地方銀行協会、9月30日[1958年6月26日講演速記録於社団法人全国地方銀行協会主催第20回銀行講座]

### 1959（昭和34）年

『日本政治の反省』鹿島研究所、1959年5月25日[評論集]

### 1961（昭和36）年

『カンボディア・マラヤ・インドネシア・タイ教育事情調査報告書』東南アジア教育事情調査団、4月

『憲法調査会公聴会の経過および結果の概要』[共著]憲法調査会、12月

### 1963 (昭和 38) 年

『憲法論議をめぐって』2月14日講演 (於日本工業倶楽部第340回木曜講演会) [「憲法調査会の成果」と改題『民主社会を支えるもの』収録]

『民主社会を支えるもの』鹿島研究所出版会、8月5日 [評論集]

### 1964 (昭和 39) 年

『憲法調査会の最終報告をめぐって』<講演シリーズ 210>内外情勢調査会、5月18日講演 (於東京・帝国ホテル)

『日本政治のひずみ』(福岡県選挙管理委員会・福岡県公明選挙推進協議会、11月20日)

### 1965 (昭和 40) 年

『リップマンの真髄—自由民主主義のための政治哲学—』時事通信社、11月30日 [C.ロシター、J.レーア 編、ウォルター・リップマン著、訳書:Walter Lippmann (Clinton Rossiter & James Lare eds), *The essential Lippmann : a political philosophy for liberal democracy*]

### 1966 (昭和 41) 年

『日本の政治・政党』[講演 2 篇:「日本政治の反省」、「政党の近代化」]<民主社会協会シリーズ>1月20日 [『民主主義のための講演集』(民主社会協会、1967年)収録]

### 1967 (昭和 42) 年

『イデオロギーの時代—1750年から現代に至る政治思想—』<時事新書>時事通信社、2月10日 [フレデリック・M.ワトキンス著、訳書:Frederick M. Watkins, *The age of ideology: political thought, 1750 to the present*]

### 1968 (昭和 43) 年

『日本に遺す』鹿島研究所出版会、4月30日 [評論集]

### 1974 (昭和 49) 年

『矢部貞治日記 銀杏の巻』読売新聞社、5月15日

『矢部貞治日記 櫛の巻』読売新聞社、8月25日

### 1975 (昭和 50) 年

『矢部貞治日記 紅葉の巻』読売新聞社、2月25日

『矢部貞治日記 躑躅の巻』読売新聞社、5月7日

### 1989 (昭和 64・平成元) 年

『矢部貞治日記 欧米留学時代』(非売品) 矢部堯男、6月20日

## 2. 共著（編著含む）

### 1930（昭和5）年

多数決『社会科学大辞典』社会思想社編、改造社、5月15日

デモクラシー『社会科学大辞典』社会思想社編、改造社、5月15日

### 1931（昭和6）年

近代国家観の変遷『婦人公論大学 政治経済篇』中央公論社、8月14日

### 1932（昭和7）年

序文『民主政治と独裁政治—デモクラシーの本質と価値』ハンス・ケルゼン著・西島芳二訳、岩波書店、6月5日[『デモクラシーの本質と価値』<岩波文庫>岩波書店、1950年]

政治理論『ケルゼンの純粹法学 並、その国家・政治理論』[共著]大畑書店、6月10日

### 1934（昭和9）年

代表の社会的基礎『寛教授遷厝祝賀論文集』杉村章三郎編、有斐閣、4月17日[加筆して「代表の原理」と改題、『民主政機構の基本原理』収録]

### 1935（昭和10）年

独裁政と衆民政『吉野作造先生追悼記念 政治及政治史研究』嶺山政道編、岩波書店、11月10日

### 1936（昭和11）年

デモクラシー『法律学辞典 第3巻』岩波書店、3月15日

ファシズム『法律学辞典 第4巻』岩波書店、8月27日

### 1937（昭和12）年

欧州政治の現況『第一回文化講習会講義録』<講演叢書 第二篇>渡辺翁記念文化協会、11月27日

### 1941（昭和16）年

[小田村寅二郎宛矢部貞治書簡ほか]『教育はかくして改革せらるべし 東大政治学教授矢部貞治氏と学生小田村君の往復文書公表』日本学生協会、1月10日

戦時経済行政機構案要点『戦時経済運営機構（案）』3月10日、海軍省調査課[『昭和社會經濟史料集成 第12巻』（大東文化大学東洋研究所、1987年）収録]

デモクラシー／独裁『社会科学新辞典』河出書房、4月30日[改訂版：1946年6月10日]

## 1942 (昭和 17) 年

共同体と政治『東京帝国大学学術大観 法学部経済学部』東京帝国大学、5月20日

政治外交戦『第四回総研海軍関係特別研究会報告』10月23・24日[『昭和社会経済史料集成 第17巻』(大東文化大学東洋研究所、平成4年)収録]

## 1943 (昭和 18) 年

全体主義政治学『日本国家科学大系 第4巻 国家学及政治学 2』孫田秀春編、実業之日本社、2月28日

共栄圏的世界新秩序の研究『世界新秩序と交易新体制論』<大東亜問題調査会研究報告 第2巻>日本評論社、10月1日[『矢部貞治日記』1943年10月29日、参照]

## 1944 (昭和 19) 年

独逸の戦争目的『欧州新秩序研究会報告集』外務省政務局第4課、3月

独逸の政治と組織『綜合独逸講座 第1輯』日独文化協会、4月15日

総力戦政治体制『総力戦』総力戦学会編、帝国出版、10月20日

近代国家『世界史講座 第7巻 ヨーロッパ世界史』弘文堂書房、11月20日

## 1947 (昭和 22) 年

序文『青年の理想』中曾根康弘著、一洋社、3月31日

新憲法を活かす道『新憲法解説』新潟県社会教育協会編、詩と詩人社、5月3日

## 1948 (昭和 23) 年

日本政治民主化の課題『再建の原理と社会思想』<社会思想研究 1>実業之日本社、4月25日

国民協同党の将来性『五大政党を解剖する』<『政治経済評論』第2輯>政治経済評論社、5月5日

## 1952 (昭和 27) 年

矢次家の茶の間『菊の香り 矢次豊子追悼録』矢次一夫編、非売品、10月20日

## 1953 (昭和 28) 年

政治学『NHK教養大学』日本放送協会、3月25日

太平洋戦争と政党一特に大政翼賛会の役割『太平洋戦争原因論』日本外交学会編、新聞月鑑社、6月1日

国内の政治情勢[7月3日講演・校閲済速記]『講演集 第1輯』警察大学校校友会、9月15日

はしがき『新しい日本の進路』高山岩男・矢部貞治編、勁草書房、12月20日



日本のとるべき国際的進路『新しい日本の進路』高山岩男・矢部貞治編、勁草書房、12月20日[『日本政治の反省』収録]

### 1954 (昭和 29) 年

選挙権とは『あけぼの—成人に贈る書 昭和 29 年版』新潟県選挙管理委員会・公明選挙推進協議会、1月15日

民主主義と能率『市政講座』<都市研修シリーズ 2>4月

代表『政治学事典』平凡社、5月18日

民主政治における国会のあり方について—現代国会制度の問題点—『日本国憲法の性格と問題点』<特別資料 第 2>自由党憲法調査会、6月

議院内閣制の検討『国会制度と内閣制度』<特別資料 第 3>自由党憲法調査会、7月

このまゝまでは日本は危い『日本の政治をどうするか』<国政研究パンフレット 1>国政同志会、8月

日本の議院内閣制について『国会と内閣の関係』<憲法研究資料第 1 号>緑風会政務調査会、10月15日

国際道義と戦犯抑留問題—人道上許し難い捕虜の強制労働—『中ソ共同宣言と李徳全の訪日』世界民主研究所、11月5日

現代国家と民主政治の課題『研修資料第 3 集』<研修所資料 20>、防衛研修所、月日未詳

### 1955 (昭和 30) 年

大東亜戦争の世界史的意義『近衛霞山公五十年祭記念論集 アジア 過去と現在』近衛霞山公五十年祭記念論集編集委員会編、財団法人霞山倶楽部、1月10日

民主政治と社会党の在り方—左社綱領批判を中心として—『民主政治と社会党 社綱領批判』世界民主研究所編、世界民主出版部、4月15日

イギリスの政党を見る『英国総選挙視察報告書』高橋雄豺[自治庁]、7月

日ソ交渉の基本的態度『日ソ交渉の基本問題 中立と日本』世界民主研究所編、世界民主出版部、8月15日

国会の地位と活動『日本の政治』<毎日ライブラリー>嶺山政道編、毎日新聞社、9月10日

イギリスの政党と日本の政党『鉄道講習会講演集 (第八回)』私鉄経営者協会、9月

自主憲法論『現代政治経済講座』日本外政学会出版局編、日本外政学会、10月15日

国家[「XVI 体制」中の 1 項目]『経済学大辞典 第三巻』東洋経済新報社、1955 年 12 月 25 日

### 1956 (昭和 31) 年

民主政治のあり方から見た日本国憲法『憲法改正は是非か』毎日新聞社、4月20日

二大政党の将来『第六回夏季大学講座テキスト』、8月

エヴァンストンでの大山先生『大山先生の思い出』<大山郁夫記念事業会編『大山郁夫伝』別冊付録>

中央公論社、11月30日

近衛新体制の謎『秘められた昭和史』<別冊知性 5>河出書房、12月10日

### 1957（昭和32）年

はしがき『曲り角にきた社会党』[編著]新紀元社、3月15日

民主政治と社会党政権『曲り角にきた社会党』[編著]新紀元社、3月15日

序『佐野学著作集』第1巻、佐野学著作集刊行会、9月28日

### 1958（昭和33）年

マルクス主義の階級国家論『階級国家論独裁理論』世界民主研究所編、世界民主出版部、10月15日[『日記』1957年12月7、8日、参照]

### 1959（昭和34）年

鳥中時代の林先生『林重浩先生の面影』林重浩先生遺徳顕彰会、5月15日

\*新保守主義の政治哲学『新保守主義』自由民主党編、自由民主党広報委員会出版局、10月

### 1960（昭和35）年

議会政治とデモ・デモの本質とその限界ー『議会政治破壊のデモー民主政治下のデモと専制政治下のデモ』鍋山貞親編、世界民主研究所、7月1日[座談会：鍋山貞親、弘津恭輔]

教えて倦まざる先生『林菊三郎先生の風貌』林菊三郎先生御在職五十年記念集刊行会、12月30日

### 1961（昭和36）年

ドイツ国家学の展開と帰結ー第二次大戦前夜のドイツ国家学を中心としてー『政治思想における西欧と日本 上』福田歓一編、東京大学出版会、1月30日[『民主社会を支えるもの』収録]

日本政治の反省ー民主社会に共通な原理ー『話しあいの友 助言者用 その2』公明選挙連盟、3月15日

### 1962（昭和37）年

日本における議院内閣制について『国会年鑑 昭和37年版』国会年鑑刊行会、5月10日

国を愛する心『光と愛・敬』千田金二編、<甲子会新書>日本甲子会、10月20日

公共の道義『光と愛・敬』千田金二編、<甲子会新書>日本甲子会、10月20日

議会政治と国民『光と愛・敬』千田金二編、<甲子会新書>日本甲子会、10月20日

怨に報いるに徳をもってす『光と愛・敬』千田金二編、<甲子会新書>日本甲子会、10月20日

若人に望むもの『光と愛・敬』千田金二編、<甲子会新書>日本甲子会、10月20日

『新しい階級』を読む『光と愛・敬』千田金二編、＜甲子会新書＞日本甲子会、10月20日

### 1963（昭和38）年

青少年時代『小野塚喜平次 人と業績』南原繁・蛭山政道・矢部貞治共著、岩波書店、10月25日

### 1964（昭和39）年

憲法調査会の課題・その方向『憲法問題』＜新聞編集資料8＞日本新聞協会、6月15日[『日本に遺す』収録]

『特別番組 憲法調査会の報告書と今後の問題』[総合テレビ・第1ラジオ・FM放送]日本放送協会報道局政経番組部、7月3日[座談会：愛知揆一、江田三郎、曾祢益、清宮四郎、佐藤功]

『座談会 総選挙に望む』[総合テレビ・第1ラジオ]日本放送協会報道局政経番組部、7月5日[座談会：長谷部忠、土屋清、唐島基智三]

『政治座談会 新池田体制の課題』[総合テレビ・第1ラジオ]日本放送協会報道局政経番組部、7月19日[座談会：三木武夫、中村梅吉、周藤英雄、鈴木善幸、唐島基智三]

矢部貞治委員の意見[「改正を要する」とする委員の意見]『憲法調査会における各委員の意見』[憲法調査会編]＜憲法調査会報告書付属文書 第1号＞大蔵省印刷局、7月)

青少年非行問題にもとりくめ[「日本健青会に期待する」]『健青運動十五年史一人づくりをつみあげてー』日本健青会中央本部、8月15日

英国下院議員総選挙及び西独選挙制度視察調査報告『英国下院議員総選挙を語る 付 選挙制度審議会調査団調査報告』＜選挙管理事務参考資料＞(自治省選挙局、12月)

英国の総選挙を語る『英国下院議員総選挙を語る 付 選挙制度審議会調査団調査報告』＜選挙管理事務参考資料＞自治省選挙局、12月[座談会：青木正、近藤操、島上善五郎、田上穰治、長谷川峻、長野士郎]

### 1965（昭和40）年

序『外交の考え方』杉原荒太著、鹿島研究所出版会、3月15日

政界の現状と今後のあり方『第10回都市銀行研修会講義集』東京銀行協会、7月10日

## 3. 高等学校教科書

\*『改訂 高等社会』[共著]講談社、1960年[月日未詳]

『改訂 高等社会 教授資料』[共著]講談社、1960年3月10日

『標準 高等政治・経済』[監修]講談社、1964年[月日未詳]

『標準 高等政治・経済 指導資料』[監修]講談社、1964年5月5日

#### 4. 論文等(新聞・雑誌掲載)<1828 篇>

##### 1927 (昭和 2) 年

英吉利[「一九二六年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』41-1、1月1日

##### 1928 (昭和 3) 年

英吉利[「一九二七年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』42-1、1月1日

制度としての衆民政『国家学会雑誌』42-3、3月1日

H. J. Laski, *On the study of politics. An inaugural lecture, 1926*[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』42-5、5月1日

Ernest Berker, *The study of political science and its relation to cognate studirs, 1928*. Hans von Eckardt, *Grundzüge der Politik, 1927*[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』42-11、11月1日

##### 1929 (昭和 4) 年

英吉利[「一九二八年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』43-1、1月1日

J.W.Garner, *Political science and government, 1927*[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』43-7、7月1日

##### 1930 (昭和 5) 年

英吉利[「一九二九年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』44-1、1月1日

Alfred Zimmern, *The Prospects of Democracy 1929*; F. A. W. Gisborne, *Democracy on Trial, 1928*[「紹介及批評」]『国家学会雑誌』44-4、4月1日

G.Guy-Grand, *L'avenir de la démocratie, 1928*. L.Rongier, *La mystique démocratique, 1929* [「紹介及批評」]『国家学会雑誌』44-5、5月1日

代議政の危機に関する近年若干の論議[「資料及雑録」]『国家学会雑誌』44-9、10、9月1日、10月1日

##### 1931 (昭和 6) 年

仏蘭西[「一九三〇年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』45-1、1月1日

政治学最近の諸傾向[「(特輯) 最新社会科学界展望」]『中央公論』46-1、1月1日

G. E. G. Catlin, *The science and method of politics, 1927. A study of the principles of politics, 1930* [「紹介及批評」]『国家学会雑誌』45-4、4月1日

現代独逸に於ける衆民政緒論—衆民政本質の諸問題『国家学会雑誌』45-10、12、46-2、10月1日、12月1日、1932年2月1日

### 1932（昭和7）年

- 仏蘭西「資料 一九三一年海外政治事情」『国家学会雑誌』46-1、1月1日
- 現代人は苦悶する『新英米文学』1-1、2月1日
- 列国議院年鑑 *Annuaire interparlementaire*, 1931[「紹介」]『国家学会雑誌』46-3、3月1日
- 洋書の書架から『帝国大学新聞』432、5月16日
- クラボウスキー「政治学」Adolf Grabowsky, *Politik*, 1932[「紹介」]『国家学会雑誌』46-9、9月1日
- 思想的危機と政治的危機『理想』35、11月1日

### 1933（昭和8）年

- フランス議会議事方法の改革論—オーバール・ルファの研究—[「資料」]『国家学会雑誌』47-4、5、4月1日、5月1日
- ティボデー「フランスの政治思想」Adolf Thibaudet, *Les idées politiques de la France*, 1932 [「紹介」]『国家学会雑誌』47-7、7月1日
- 懸賞論文漫言『緑会雑誌』5、12月9日

### 1934（昭和9）年

- 「現代の救国的指導者如何」『政治経済時論』9-1、1月1日
- 「第六十五議会解散の当否」『政治経済時論』9-1、1月1日
- 現代日本主義の考察『理想』45、1月1日
- 公民篇 政党の話『青年カード』2-17、2月2日
- バーヂェス「政治学の諸基礎」John W. Burgess, *The Foundations of political science*, 1933 [「紹介」]『国家学会雑誌』48-3、3月1日
- 非常時は独裁政治を必要とするか『中央公論』49-3、3月1日
- 一九三三年英米政治学界瞥見『国家学会雑誌』48-4、4月1日
- 社会改造に於ける自由主義と独裁主義『理想』47、4月1日[『社会改造の諸学説』（理想社、1934年7月10日）収録]
- 政治の復興『経済往来』9-5、5月1日
- 執行権拡大強化の世界的趨向『専売協会誌』262、6月1日
- 多数決の社会的機能『法学協会雑誌』52-7、8、7月1日、8日1日[加筆して「多数決の原理」と改題、『民主政機構の基本原則』収録]
- ホルコム「新政党政治論」A. N. Holcombe, *The new party politics*, 1933[「紹介」]『国家学会雑誌』48-8、8月1日
- シュナイダー著 佐々・戸野原共訳『ファシズム国家学』[「紹介」]『国家学会雑誌』48-10、10月1日
- 刻下の青年に寄す『行動』2-11、11月1日

シュパン「真正国家論」[Othmar Spann, *Der wahre Staat*](阿倍源一・三沢弘次共訳)〔紹介〕『国家学会雑誌』48-11、11月1日

国民政治の正道『経済往来』9-12、12月1日

### 1935（昭和10）年

高調さるべき啓蒙的価値 河合教授「ファツシズム批判」を読んで『帝国大学新聞』559、1月21日

浪漫主義の実践性『行動』3-2、2月1日

アメリカ便り『帝国大学新聞』581、582、6月10、17日

英国時事断想『帝国大学新聞』594、10月14日

アメリカだより『日本評論』10-10、10月1日

英国労働党の近情『日本評論』10-12、12月1日

### 1936（昭和11）年

英国だより『日本評論』11-1、1月1日

巴里通信『帝国大学新聞』623、4月27日

フランス政治通信『日本評論』11-7、7月1日

ハイデルベルグ雑信『帝国大学新聞』648、11月23日

### 1937（昭和12）年

各国政治の印象—深刻な左右両翼の対立—『帝国大学新聞』681、7月5日

欧州に於ける戦争の危機『改造』19-8、8月1日

英仏政治の近況〔「法理研究会記事」〕『法学協会雑誌』55-8、8月1日

英仏両国の総選挙の印象『法律時報』9-8、8月1日

思ひ出の風物 欧米の旅より『帝国大学新聞』683、8月9日

〔「カレントブックス」〕『帝国大学新聞』685、9月13日

\*字部の印象『大宇部』9月13日頃

近代戦と政治『改造』19-12、11月1日

民族発展の倫理『理想』79、12月1日

ナチスと大学教授『緑会雑誌』9、12月5日

### 1938（昭和13）年

北支雑感『[一高同窓会]会報』36、1月27日

戸沢鉄彦「政治家」(昭和十二年)〔紹介〕『国家学会雑誌』52-2、2月1日

- 大石浜太郎氏著『政治学汎論』[書評]『東京朝日』2月7日
- 北支文化工作を語る『帝国大学新聞』711、3月14日[座談会：赤堀英三、上田捷雄、海保宗臣、鞍田純、富田真治、安井郁]
- 「具体的共同体」論について—ナチス政治・法理論雑題—[「叢説」]『国家学会雑誌』52-4、4月1日
- オアシスの魅力 蟬山政道教授の『ヒューマニズムの政治思想』『帝国大学新聞』716、4月18日
- C. J. M. Alport, *Kingdoms in partnership*, 1937 [「紹介」]『国家学会雑誌』52-5、5月1日
- ナチス政治理論概説[「特輯 ナチス独逸の研究」]『国家学会雑誌』52-6、6月1日
- P. Meier-Benneckenstein, hg., *Dokumente der deutschen Politik*. 2 Aufl. 1937 [「紹介」]『国家学会雑誌』52-6、6月1日
- 大石兵太郎、政治学汎論[「紹介」]『国家学会雑誌』52-8、8月1日
- H. Lefebvre, *Le nationalisme contre les nations*[「紹介」]『国家学会雑誌』52-8、8月1日
- B. F. Lippencott, *Victorian critics of democracy* [「紹介」]『国家学会雑誌』52-8、8月1日
- 今中次麿氏著政治統制論[書評]『東京朝日』8月8日
- 今中次麿、政治統制論[「紹介」]『国家学会雑誌』52-9、9月1日
- N. Angell, *The defence of the Empire*[「紹介」]『国家学会雑誌』52-9、9月1日
- M. Roberts, *Bio-politics*[「紹介」]『国家学会雑誌』52-9、9月1日
- ナチスの世界観[「ナチス独逸の紹介」]『通信協会雑誌』361、9月10日
- 修道の志 大澤章氏『丘の書』を読み『帝国大学新聞』731、9月12日
- J. Feibleman, *Christianity, communism, and the ideal society*[「紹介」]『国家学会雑誌』52-10、10月1日
- E. Simon ed., *Constructive democracy*[「紹介」]『国家学会雑誌』52-10、10月1日
- D. C. Holtom, *The national faith of Japan* [「紹介」]『国家学会雑誌』52-11、11月1日
- 岩田孝三、国境政治地理[「紹介」]『国家学会雑誌』52-12、12月1日
- G. S. Gracchus, *The renaissance of democracy* [「紹介」]『国家学会雑誌』52-12、12月1日
- 懸賞論文短評『緑会雑誌』10、12月20日

### 1939 (昭和 14) 年

- 英吉利[「特輯 海外政治の動向」]『国家学会雑誌』53-1、1月1日
- J. Bainville, *L'Angleterre et l'Empire britannique*[「紹介」]『国家学会雑誌』53-2、2月1日
- J. P. Clark, *The rise of a new federalism* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-2、2月1日
- E. Y. Hartshorne, *The German universities and. national socialism* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-2、2月1日
- E. Heimann, *Communism, fascism, or democracy?*[「紹介」]『国家学会雑誌』53-2、2月1日
- R. Labrousse, *Essai sur la philosophie politique de l'ancienne Espagne* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-2、

2月1日

郷土『知性』2-2、2月1日

新見吉次、すめらみくに[「紹介」]『国家学会雑誌』53-3、3月1日

ヴント著、平野義太郎訳、民族心理より見たる政治的社会[「紹介」]『国家学会雑誌』53-4、4月1日

ケルロイター教授とドイツ公法学界『法律時報』11-4、4月1日

欧州危局への打診『改造』21-5、5月1日[4月6日座談会(於東京会館): 聴涛克己、城戸又一、伍堂卓雄、堀井昌一、益田豊彦、横田喜三郎]

議会制度[「特輯 国内改革の諸問題」]『国家学会雑誌』53-9、9月1日

E. M. Sait, *Political institutions* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-11、11月1日

J. L. Stocks, *Materialism in politics* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-11、11月1日

P. v. Werder, *Gemeinschaft und Herrschaft als Staats- und Kulturtypen* [「紹介」]『国家学会雑誌』53-11、11月1日

ヨーロッパの前途『改造』21-14、12月7日

## 1940 (昭和15) 年

現時の学生に就て『知性』3-1、1月1日[室伏高信編『現代学生は何を為すべきか』(四谷書房、1940年)収録]

政治家と国民『帝国大学新聞』798、2月12日

座談会 七十五議会の審判『改造』22-4、3月1日[座談会: 小汀利得、谷川徹三、芦田均、東畑精一、水谷長三郎、久米正雄]

国民の政治力と新政治機構の研究『公論』3-4、4月1日[座談会: 穂積七郎、勝間田清一、河野密、尾崎秀実、平貞蔵]

里見岸雄、日本政治の国体的構造[「紹介」]『国家学会雑誌』54-4、4月1日

C.H. McIlwain, *Constitutionalism and the changing world* [「紹介」]『国家学会雑誌』54-4、4月1日

J. K. Pollock, *The government of greater Germany* [「紹介」]『国家学会雑誌』54-4、4月1日

W. C. Smith, *Public opinion in a democracy* [「紹介」]『国家学会雑誌』54-4、4月1日

D. Spearman, *Modern dictatorship* [「紹介」]『国家学会雑誌』54-4、4月1日

建設的政治体制の方向[「日本政治の再検討」]『帝国大学新聞』812、5月20日

当来政治の推進体制『公論』3-6、6月1日

『日本政治の再編成』討論会『中央公論』55-6、6月1日[座談会: 三木清、風早八十二、林広吉、穂積七郎、石浜知行][『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録]

アメリカ文化随想『理想』109、6月1日

戦争・政治・文化『改造』22-11、6月2日[5月14日座談会(於星ヶ丘茶寮): 細川嘉六、三木清、益田豊彦、板倉進][『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録]

新しい政治体制とは『週刊朝日』38-2、7月14日[『現代史資料44 国家総動員2』(みすず書房、1974



年)収録]

建設的な日本政治体制『蚕業新報』568、8月1日

ゲマインシャフトと政治『日独文化』1-2、8月5日

The Destiny of Europe『Contemporary Japan』9-8、8月

新体制の発足『誓ひ』を厳肅に堅持せよ[「新政治体制の要望」]『帝国大学新聞』822、9月9日

座談会 新体制に於ける青少年を語る『青少年指導』6-7、10月1日[座談会：城戸幡太郎、上泉秀信、桐原葆二、高瀬五郎、川尻連夫]

新体制と新秩序[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』10月3日

大陸国家と海洋国家[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』10月10日

指導と被指導[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』10月17日

選挙の新体制[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』10月24日

俱学俱進[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』10月31日

英帝国の運命[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』11月7日

世界政治新秩序の研究『国際経済研究』1-10、11月11日

求心と遠心[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』11月14日

府県制の再検討[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』11月21日

事物の本性[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』11月28日

予算の査定[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月5日

強力政治[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月12日

政治と修養[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』12月19日

## 1941 (昭和 16) 年

現下の政情 [「第一線」]『読売新聞[夕刊]』1月9日

学生と政治[「文化評論」]『帝国大学新聞』839、1月13日

政府と議会[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』1月16日

「政治」の意味[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』1月23日

米国の挑戦[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』1月30日

党人の錯覚[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』2月6日

法治主義[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』2月13日

戦時経済 運営機構[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』2月20日

政治の復興[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』2月27日

内外新体制の先駆者 山浦貫一氏著『森格』を読む『帝国大学新聞』852、4月14日

戦争と政治[講演要旨]『一橋新聞』338、11月25日

## 1942 (昭和 17) 年

統制経済と政治力の問題[「特輯 経済統制の研究」]『国家学会雑誌』56-3、3月1日

新入生諸君[「文化評論」]『帝国大学新聞』896、4月13日

印度洋帝国としての英帝国の末路『太平洋』5-8、8月7日

内在と超越の合一的地位 大東亜共栄圏政治構成の理念『帝国大学新聞』913、8月31日

梅雨放談『緑会雑誌』14、9月5日

決戦政治の確立『朝日新聞』12月17～20、22日[12月16日座談会(於朝日新聞社): 田畑長茂、前田米蔵、山崎達之輔、中野正剛、中島弥団次、橋本清之助、相川勝六、田中長義、三輪寿壮、津雲国利、小平権一、津久井龍雄]

## 1943 (昭和 18) 年

決戦態勢の急 未曾有の政治力躍動へ[「戦力と政治」]『東京新聞』1月27日

E. H. Carr , Conditions of peace,1942『国家学会雑誌』57-2、2月1日

総力戦下の政治 国民運動の方途『東京新聞』2月16、17日

ローマ帝国、英帝国、大東亜共栄圏『法律時報』15-3、3月1日

米国的文明に対する闘争『改造』25-5、5月1日

総力戦の重点遂行[「日本総力戦研究座談会 4」]『改造』25-5、5月1日[座談会: 武村忠雄、川上健三、室賀信夫、寺田弥吉]

世界新秩序論序説『帝国大学新聞』950、6月21日

総力戦政治体制[8月2日総力戦研究夏期講習会講義]『経済懇話』9-8、9月5日

## 1944 (昭和 19) 年

世界戦局と日本『中央公論』59-1、1月1日[鼎談: 長谷川才次、武村忠雄]

民族国家樹立とその前途『同盟世界週報』25-1、1月1日

天与の資源開発 真の文明は共栄圏から[「大東亜共同宣言に寄す」]『合同新聞[夕刊]』1月18日

[「輿論動員の対象と新聞」]『日本新聞報』96、2月22日

必勝日本と世界戦局『中央公論』59-4、4月1日[鼎談: 加瀬俊一、武村忠雄]

赤裸の真実に[「言論政策に望む」]『日本読書新聞』307、8月21日

## 1945 (昭和 20) 年

基本的人権の確立を要す—新日本政治の在り方について—[「日本政治の転換と課題」]『大学新聞』40、10月1日

政治の再建とデモクラシー『読売報知』10月1～4、6日[座談会: 安藤正純、賀川豊彦、大内兵衛、船田中、羽仁説子]

デモクラシーとはどういうことかー新日本建設の鍵ー[インタビュー]『富士』21-8、11月1日

### 1946 (昭和 21) 年

デモクラシーとは 民主主義の正しい理解と実践のために[「新生国民講座」]『月刊読売』4-1、1月1日

[「婦人参政権と婦人への希望」]『生活文化』7-2、2月1日

民主主義と警察『警察協会雑誌』522、6月1日

憲法改正草案について『共同通信(特信文化)』123、6月4日

輿論の向上『サーヴェイ』4、7月15日

日本民主化の方向『サーヴェイ』5、9月1日[座談会：黒田寛、高山岩男、永末英一]

民主主義に於ける自由主義と団体主義『理想』166、9月1日

吉満義彦君の想ひ出『カトリック思想』26-2、9月20日

英国人と政治『帝都消防』22-202、10月10日

或る警察官の運命について『あさあけ』1-2、11月1日

民主主義の話『月刊刑政』58-1、2、59-1～3、11月1日、12月1日、**1947年**3月1日、5月1日、**1948年**5月1日

### 1947 (昭和 22) 年

新憲法を活かす途『自警』29-1～3、1月1日、2月1日、3月1日[『新憲法を活かす途』(警察協会、1947年3月)として刊行]

「行政の民主化」について『新警察』2-1、1月1日

民主主義と警察[1月23日講演速記於新潟県労働会館]『護光』2・3月合併号、2月28日

繁栄のための政治『PHP』1-1、4月1日

新憲法を生かす途『新文庫』1、5月20日

協同主義と新憲法[1947年1月14日津市講演速記聞]『協同主義』10、6月15日

新憲法を活かす途『北海警友』2-6～8、7月20日、8月20日、9月20日

民主主義の前提『新生蚕糸』2-8、8月1日

民主主義と警察『平安』13-5、6、8月20日、9月20日[『護光』より転載]

ある警察官『北海警友』2-7、8月20日

ある警察官『芙蓉』2-8、9月20日

民主主義と警察『芙蓉』2-10、11、12、3-1、2、9月20日、11月20日、12月20日、**1948年**1月5日、2月15日

わが民族の死活『帝都消防』23-212、10月10日

階級の問題[「公論」]『熊本日日新聞』10月26日

民主主義と警察『石川警察』31～33、10月30日、11月30日、**1948年**1月20日  
ある警察官『警友』10、11月30日[『北海道警友』2-7、8月20日から転載]  
政治指導勢力の性格[「公論」]『熊本日日新聞』12月30日  
国協党に与う『読売新聞』12月30日

## 1948（昭和23）年

民衆国家と警察国家『あさあけ』3-1、1月1日  
ある警察官『佐賀警友』3-1、1月1日  
民主国家に於ける警察の地位『警察学論集』1、1月15日[『民主主義と警察』収録]  
生産闘争[「公論」]『熊本日日新聞』1月30日  
民主主義と警察『北海警友』3-2～4、2月15日、3月15日、4月15日  
日本の政治を動かす力を語る『林友』2-1、2月25日[座談会：愛川重義、井上縫三郎、坂東幸太郎、浅見耕士]  
農村指導者に訴う[「公論」]『熊本日日新聞』2月27日  
能率ある警察[「公論」]『熊本日日新聞』3月9日  
西欧連合の成立[「公論」]『熊本日日新聞』3月30日  
政局展望[「公論」]『熊本日日新聞』4月16日  
学問と修養について[「特別寄稿」]『旭の友』22、5月1日  
[「ハガキ回答 これからの観光地をどうする」]『商店界』3-5、5月1日  
新憲法の育成[「公論」]『熊本日日新聞』5月14日  
選挙区制の問題[「公論」]『熊本日日新聞』5月21日  
保守政党の課題[「公論」]『熊本日日新聞』5月28日  
日本民主政治の将来[文責在記者]『警友』13、5月31日  
世界はどうなる！米ソ世界政策の動向『産業と産業人』1-3、6月1日[4月22日。板垣與一との対談]  
現代政党の批判『STUDENTS』1-1、6月1日  
保守党論－真に保守すべき価値あるものに就て－『自由国民』12<『日本政治の見方と各政党の分析』>、  
6月10日 [再掲載：『自由国民』16<総選挙臨時版『政治の見方と各政党の選び方』>、12月20日]  
学問と教養について『護光』6月号、6月25日  
民主政治と行政の能率[「特別寄稿」]『旭の友』24、25、7月1日、8月1日  
公式主義の誤り－学問する心について－『PHP』2-6、7月1日  
日本民主主義の課題[民主夏期講座 第二講 政治問題]『熊本日日新聞』7月18～22日  
前途は有望だ[「中央政党論をどうみるか」]『南日本新聞』8月8日  
園田に帰る『松風』2-4、8月20日

独立の鐘[「都論壇」]『都新聞』8月20日

学生から国会議員へ『日本の再建』1-1、8月28日[座談会：小橋一雄、金居成彰、森山春夫、桑田三郎、稲葉毅、小太刀博、花田雄治、河原五郎、小中公平、田中英一、山崎恒夫、坂東幸太郎、松澤兼人、千賀康治、中島茂喜、浅見耕士]

選挙と政党制『選挙』1-2、9月1日

民主主義と能率『科学思想』3、9月15日

再建政治の課題『日本の再建』1-2、9月28日

政党政治の仏国型と英国型[「公論」]『熊本日日新聞』9月29日

[「天皇退位問題の賛否とその主たる理由に就いて(二)指導者千名の意見「退位賛成論」調査]『輿論調査レポート』22、10月2日

人事院問題の重要性[「公論」]『熊本日日新聞』10月12日

政権更迭の反省[「公論」]『熊本日日新聞』10月29日

保守合同の好機[「公論」]『熊本日日新聞』11月11日

信任投票に非ず[「首班指名の性格」]『読売新聞』11月26日

民族再建の政治課題『黒潮』25、12月1日

最近の世界状況『あさひかげ』12月号、12月20日

新しい警察官の在り方『あをぞら』4、12月25日[『民主主義と警察』収録]

[「東京だより」]『静岡新聞』12月29日<<無署名>>

[「東京だより」]『静岡新聞』12月30日<<無署名>>

[「東京だより」]『静岡新聞』12月31日<<無署名>>

## 1949 (昭和 24) 年

健全な保守党のために『新星』2-5、1月1日

人間の学校『PHP』3-1、1月1日

最近のアメリカ外交政策『季刊外交』1、1月5日

[「東京だより」]『静岡新聞』1月9日<<無署名>>

今後の政党に望む『協同主義』20、1月15日

政治学[「政治学講座」]『日本の再建』2-2、1月28日[連載。次号以下、未見]

政局の前途を想う[「時評」]『読売新聞』1月31日

[「東京だより」]『静岡新聞』2月1日<<無署名>>

政局の前途について『組合運動』4-2、2月25日

基盤を国民利益に 古い公式を捨てよ[「社会党をこう再建する」]『読売新聞』3月19日

共産主義は民主主義か『経営者』3-4、4月1日[『民主主義と警察』収録]

これからの日本政治『月刊読売』7-5、4月1日  
不幸な宿命[「徳新評論」]『徳島新聞』4月10日  
考査委の宿命[「論壇」]『信濃毎日新聞』4月10日  
青年に寄す『組合運動』4-4、4月25日  
民主主義と行政機構[「特別寄稿」]『旭の友』34、35、5月1日、6月1日[『民主主義と警察』収録]  
山川草木の思い出『いしかわ』48、5月11日  
パリ春夏『松風』2-7、6月1日  
共産主義は民主主義か『けいえん』5・6、6月28日[『経営者』3-4、4月1日から転載]  
ある警察官『公安春秋』1-7・8、8月20日[『北海道警友』2-7、1947年8月20日から転載]  
国家再建と共産主義[7月24日共産主義批判講演会速記]『芙蓉』4-8、9月20日  
国家再建と共産主義『人世』15-9、10月1日[『民主主義と警察』収録]  
共産主義は民主主義か『山峡』4-9、10月15日[『けいえん』5・6、6月28日から転載]  
暴力と革命について『旭の友』39、11月1日[『民主主義と警察』収録]  
教師『あゆみ』1-7、11月1日  
社会民主主義論『再建評論』2、11月1日  
時局と警察官『浜のまもり』1-7、11月15日  
[「講和をどう思う 本社によせる各界の県会」]『読売新聞』11月22日  
近衛文麿遺稿解説『改造』30-12、12月1日

## 1950 (昭和 25) 年

デモクラシー放談『経営者』4-1、1月1日[座談会：鈴木文史郎、三宅晴輝]  
社会民主主義論『社会の動き』5-1、1月1日[『再建評論』2、1949年11月1日からの転載]  
[「東京だより」]『静岡新聞』1月4日<<無署名>>  
[「東京だより」]『静岡新聞』1月5日<<無署名>>  
むしろ分裂歓迎 右派の勉強に期待[談]『[大阪]毎日新聞[夕刊]』1月21日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十五年版 I』(新聞資料出版、2000年)]  
政党の分裂と民主政治[「日曜評論」]『読売新聞』1月22日  
時局と警察官『山峡』5-1、1月25日[『浜のまもり』1-7、1949年11月15日から転載]  
嵐を呼ぶアジア『産業と産業人』3-3、3月1日[座談会：帆足計、入江啓四郎、板垣与一]  
統一社会党に期待するもの[「伊勢評壇」]『伊勢新聞』4月10日  
[「東京だより」]『静岡新聞』4月10日<<無署名>>  
国際情勢と日本立国の途『上毛警友』5-4、5、4月[25]日、5月28日  
地方自治を語る『自治日報』142・143、5月9日[座談会：神野亮二、高辻正巳、大石ヨシエ、佐久間

疆、白鳥美三郎]

イギリスの労働党と保守党『経営者』4-6、6月1日  
選挙批判・共産党問題を衝く[「東京だより」]『山陰日日新聞』6月10日  
共産党の非合法化[「時評」]『新岩手日報』6月15日  
立国の道と安全保障『暁鐘』5月号、6月20日  
政界病理の診察『自警』32-7、7月1日  
中立と安全の問題『人世』16-5、7月1日  
君主制と民主政治『済寧』2-7、7月5日  
共産党の非合法化をめぐる『浜のまもり』2-7、7月15日  
国際情勢と日本立国の途『暁鐘』6月号、7月18日[「上毛警友』5-4から転載]  
客観情勢を見よ 国亡ぶも中立守るか[「社党の回答を批判する」]『読売新聞』7月29日  
講和問題と警察『福島警友』5-8、8月1日  
最近の国際情勢と警察『護光』5-8、9、8月5日、9月5日  
講和と社党の態度[「日曜論壇」]『山形新聞』8月20日  
警察予備隊の問題点『新警察』5-9、9月1日  
時局と警察[7月7日於福井市警講堂]『福井警友』36、37、9月1日、10月1日  
国際情勢と警察『いしかわ』64、65、9月11日、10月11日  
岐路に立つ平和『後楽』4-9、9月15日  
朝鮮の動乱と今後の世界動向『暁鐘』9月号、9月18日  
超党派外交を阻むもの『エコノミスト』28-31、11月1日  
社会党の平和運動批判[「朝鮮動乱と平和問題」]『官業労働』4-11、11月1日  
マキアヴェリと現代『日本及日本人』1-2、11月1日  
観念の平和と現実の平和『警苑』11月15日  
朝鮮戦乱と講和問題『日向』12、11月25日  
[「東京だより」]『静岡新聞』12月29日<<無署名>>

## 1951（昭和26）年

民主主義と警察『受験月報』2-1、1月1日  
新しい年の政治課題『福島警友』6-1、1月1日  
[「東京だより」]『静岡新聞』1月4日<<無署名>>  
情勢に応じた体制を作れ[「新春の郷土へ」]『毎日新聞[鳥取版]』1月9日  
[「東京だより」]『静岡新聞』1月13日<<無署名>>

内外の呼吸一致の後[「日本の再軍備はか非か 各界代表の意見をきく」]『伊勢新聞』1月24日

ダレス特使を迎えて『日本海新聞』1月28日(『伊勢新聞』1月29日)[座談会：植原悦二郎、工藤昭四郎]

憲法改正をめぐる諸問題『主張と解説』1-1、2月1日

平和憲法の悲劇『月刊読売』9-3<号外版>、2月5日

[「日本の危機に備えて—各界の名士に聴く—」]『月刊読売』9-3<号外版>、2月5日

善意の無知について『主張と解説』1-2、2月15日

糞土の牆『主張と解説』1-3、3月1日

講和会議と再軍備・講和後の林業の重要性『日本の再建 山と生活』6-3、3月1日[2月14日座談会(於目黒雅叙園)：愛川重義、井上縫三郎、白神勤、佐木義夫、石谷憲男、藤本和平、平野孝二、淺見耕士]

地方自治と地方選挙の課題[「日曜評論」]『読売新聞』3月11日

共産党の非合法化『日本海新聞』3月28日

緊急座談会 日本の自衛について『学苑』12-4、4月1日[座談会：加瀬俊一、工藤昭四郎、土屋清、長谷川才次、赤尾好夫]

混迷の社会党『主張と解説』1-5、4月1日

政治的独立の最低線[「特集 自立のための最低線」]『中央公論』66-4、4月1日

祖国と祖国愛『主張と解説』1-8、5月15日

ソ連膨張政策の性格検討『主張と解説』1-8、5月15日[座談会：鍋山貞親、草野文雄、佐野学、直井武夫]

西尾知事に望む『大因伯』30-5、5月15日

時局と警察『警泉』38、5月25日

わが内外政治の動態と政界再編の方向[5月15日報告要領速記於世界民主研究所第148例会]『主張と解説』1-9、6月1日

独立日本の進むべき道『護光』7-6、6月5日

宗教と政治『大因伯』30-6、6月15日

酒と人生『主張と解説』1-13、8月1日

講和に異議を言う国々『主張と解説』1-14、8月15日

英国型政党がよい[「日曜評壇」]『西日本新聞』8月27日

PHPの政治理論について『PHP』50、9月1日

独立日本の政治と外交『主張と解説』1-16、9月15日

全面講和条約と単独講和条約の対決『中央公論』66-11<臨時増刊>、9月30日[9月18日座談会(於銀座出井)：赤松要、中野好夫、名和統一]

ソ連の講和攻勢『中央公論』66-10、10月1日[8月31日座談会(於銀座出井)：佐島敬愛、鈴木英一、武村忠雄]

左派切るもやむなし[談「社会党はいかにあるべきか」]『伊勢新聞』10月2日



ファシズムについて『主張と解説』1-18、10月15日  
新しい日本における治安機構の地位『警察予備隊資料集』1、11月1日  
政治家というもの『政界往来』17-2、11月1日  
国家と軍隊『主張と解説』1-21、12月1日  
再軍備と憲法改正問題『政界往来』17-3、12月1日[座談会：船田中、金森徳次郎、大串兎代夫、木舎幾三郎]  
代議士を欠席裁判する！『文芸春秋』29-16、12月1日[座談会：山浦貫一、原安三郎、阿倍真之助]  
新党工作の問題点[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』12月2日  
新党工作の問題点『日本海新聞』12月5日  
民主社会主義の政治学『主張と解説』1-22、12月15日  
独立日本と天皇制『読売新聞』12月22～25日[座談会：植原悦二郎、鈴木安蔵、横田喜三郎]

### 1952 (昭和 27) 年

浪人生活六年『主張と解説』2-1、1月1日  
政界再建の基本点『政界往来』18-1、1月1日  
いずれの途よりか平和へ『主張と解説』2-3、2月1日  
社会党当面の問題『主張と解説』2-6、3月15日  
どんな平和をどうして守るのか『警鼓』30-4、4月1日  
アジアの自由・平和・繁栄のために[「独立日本三つの課題 政治」]『産業と産業人』5-4、4月1日  
政治家という職業『PHP』57、4月1日  
どうして平和と安全を守るのか『文化と緑化』2-4、4月1日  
治安立法と労組『組合旗』18、4月20日  
独立日本の進むべき道『あゆみ』4-5、5月1日  
福祉国家を建設せよ『主張と解説』2-9、5月1日  
大学と警察問題雑感『警察学論集』5-5、5月25日  
治安体制の盲点『主張と解説』2-11、6月1日  
近衛文麿[「わが著書を語る」]『出版ニュース』200、6月1日  
「この世」の平和のために『政界往来』18-6、6月1日  
[参考人意見]『第13回国会衆議院地方行政委員会議録』61、6月4日  
独立日本の進むべき道『護光』7-6、6月5日  
人間鍋山氏を語る『主張と解説』2-12、6月15日  
民主主義と治安体制『平安』18-7、7月1日  
総選挙への動向と展望『主張と解説』2-15、8月1日

国際情勢とわが東亜政策の進路『天地人』1、8月1日

社会党にのぞむ『東京通信』23、8月1日[座談会：子安泰、田村祐造、中山唯男、中村菊男、沼田政次]

国会議員に苦言を呈す[「日曜評論」]『読売新聞』8月3日

民主主義と治安体制『五稜』8月12日[『平安』18-7、7月1日から転載]

低い政治道義 民主政治の運命危うし[「政局をかく批判する」]『東京新聞』8月12日

代議士の生態を衝く『講演時報』699、8月15日[座談会：山浦貫一、原安三郎、安倍真之助]

[アンケート「予算と法律の関係に対するわたくしの考え」]『ジュリスト』16、8月15日

政治の貧困は誰の責任か『新政経ニュース』1、8月15日

公明選挙を語る『島根県弘報』143、9月1日[座談会：山林禎次郎、原田虎男、山根ソノ、恩田久米盛、日野義親、酒井薫、三美宅理治]

偏狭、独善、狂信の克服 若き世代の人々へ『政界往来』18-9、9月1日

国際情勢とわが東亜政策の進路『大陸問題』1-9、9月1日

責任ある政策を 解散と政党『北海道新聞』9月3日

民主社会と警察『浜のまもり』4-9、9月5日

果たして力は平和を導くか『中央公論』67-11、10月1日[座談会：大平善梧、田畑忍、堀江忠男]

選挙の瞬間から再び奴隷となる勿れ『文化と緑化』2-10、10月1日

近頃の新聞について[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』10月8日

二大政党を望むー政界再編の問題ー[「選挙後の課題を衝く」]『都新聞』10月10日

[「開票結果をアテテみる」]『週刊朝日』57-41、10月12日

総選挙と政局の見透し『主張と解説』2-20、10月15日

派閥[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』3、10月15日<<無署名>>

総理と総裁 分離できるか『西日本新聞』10月21日

政局の不安定と政界再編の方向『選挙』5-11、11月1日

政治と経済今後の見透しー自由党内紛・再解散・国民生活・再軍備ー『文化と緑化』2-11、11月1日[座談会：愛川重義、井上縫三郎、平岡敏男、福良俊之、白神勤、土屋清]

民主主義と治安体制『埼玉警友』18-7、11月10日[『平安』18-7、7月1日から転載]

政局の不安定[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』4、11月20日<<無署名>>

不純を避け出直せ[「保守合同は是か非か」]『北海道新聞』11月23日

政局の現状と見透しを語る『改進黨新聞』12月1日[座談会：阿部真之助、清瀬一郎、宮沢胤勇、安東義民、喜多一雄、川崎秀三、早川実ほか]

第四次吉田内閣の課題『文化と緑化』2-12、12月1日

「独立」の年の政治回顧『主張と解説』2-24、12月15日

人間らしい生活[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』5、12月20日<<無署名>>

憲法改正問題について『健青通信』33、12月21日

## 1953（昭和28）年

「旅愁」と私『主張と解説』3-1、1月1日

グルー新著「波高き時代」を読んで『世界週報』34-1～3、1月1、11、21日

世界と日本『文化と緑化』3-1・2、1月1日

対決を迫られる再軍備問題『信濃毎日新聞』1月3日

軍国日本の転落過程『世界週報』34-2、1月11日

政党人の猛省を促すー国民と直結した政治へー[「政治の窓」]『新政経ニュース』6、1月15日

政策をもって争え 逆立ちしている政党[「月曜評壇」]『西日本新聞』2月2日

現下社会情勢に対処する警察官の心構え『警泉』57、2月10日[『みおつくし』から転載]

解散権の濫用[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』8、2月15日<<無署名>>

暗黒時代の和平運動秘史[細川護貞著『情報天皇に達せず』の書評]『日本読書新聞』682、2月16日

憲法改正問題について『共通の広場』2-3、3月1日

第四次吉田内閣の課題『警察時報』8-3、3月1日

米ソ関係の新展開と日本の立場『文化と緑化』3-3、3月1日

防衛と治安『福島警友』8-3、3月1日

"吉田"と"アイク"[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』3月9日<<木下紋太>>

フラフラ腰の不信任[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』3月14日<<木下紋太>>

国会のドロ仕合[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』10、3月15日<<無署名>>

今次総選挙の課題『西日本新聞』3月20、21日[阿部真之助との対談]

政界再編成の方向[「月曜評論」]『読売新聞』3月23日

猫の首に鈴を[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』3月26日<<木下紋太>>

改進黨 中道政治打出せ 再軍備には具体的資料を[「各党への批判と期待」]『毎日新聞』3月27日

政局座談会 政治に国民の期待を映せ 保守小党分立は不可避か『新政経』11、4月1日[座談会：阿部真之助、井上縫三郎、菅谷重平]

鍵はわれらに[「デモクラシー教室」]『新政経ニュース』11、4月1日<<無署名>>

政治における人間性の研究[「随想」]『新政』1-1、4月1日

座談会 総選挙、参院通常選挙への期待は？『選挙』6-4、4月1日[座談会：小汀利得、山浦貫一、佐野保房、金丸三郎]

政党と派閥『文化と緑化』3-4、4月1日

総選挙とその後の問題『民労連』49、4月1日

朝鮮の悲歌[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』4月6日<<木下紋太>>

狼子と狐[「デモクラシー教室」]『新政経ニュース』12、4月11日<<無署名>>  
山野に叫ぶ[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』4月14日<<木下紋太>>  
総選挙と政界再編成『主張と解説』3-8、4月15日  
[「次期首班には誰を選ぶべきか 各界の意見を聞く」]『読売新聞』4月21日  
政局・こうして收拾『毎日新聞』4月23日  
マイナス投票[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』4月23日<<木下紋太>>  
次期政権への指標『産業経済新聞』[「政権樹立の指標を探る」]『産業経済新聞[大阪]』4月27、28日[座談会：原田鋼、中村哲]  
政局收拾の方策『西日本新聞』4月30日、5月1日[座談会：阿部真之助、岩淵辰雄]  
苦悩する改進黨 [「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』4月30日<<木下紋太>>  
新しい内閣のとり道 政策本位に協力を『新政経ニュース』14、5月1日  
政局を語る 良識が暮らしを高める『新政経ニュース』14、5月1日[座談会：金森徳次郎、島田勉、愛川重義]  
現行民主政治の重要課題—山崎丹照「内閣論」について—[書評]『人事行政』4-5、5月1日  
連立政権について『中央公論』68-5、5月1日[座談会：工藤昭四郎、三木武夫、水谷長三郎、杉本健]  
試煉に立つ議会政治『文化と緑化』3-5、5月1日  
小選挙区制の採用が急務 政治体制“安定”の根本策『新政経ニュース』15、5月11日  
現下社会情勢に対処する警察官の心構え『山峡』8-4、5月15日[『みおつくし』5-10から転載]  
首班と議長『産業経済新聞』5月16日  
節度と良識で安定を一難航を予想される新政局—『新政経ニュース』16、5月21日  
政党はこれでよいか『産業経済新聞』5月23~25日[5月20日座談会於東京会館：嶺山政道、阿部真之助]  
改進黨と保守提携[「日曜評論」]『読売新聞』5月24日  
[「岐路に立つ改進黨等 5改進黨を見る眼」]『週刊朝日』58-22、5月31日  
日本と米英の議長[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』17、6月1日<<無署名>>  
納得できぬ政党の動き方—首班指名をめぐる—『文化と緑化』3-6、6月1日  
政局放談『文化と緑化』3-6、6月1日[座談会：井上縫三郎、愛川重義、福良俊之]  
めぐる因果の……[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』18、6月11日<<無署名>>  
国民の賢明な判断を基に『新政経ニュース』19、6月21日  
日本の政治の将来『大陸問題』2-6、6月1日  
中道勢力振わず[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』20、7月1日<<無署名>>  
総選挙後の政局不安『選挙』6-7、7月1日  
冷戦流動化の兆し『文化と緑化』3-7、7月1日

鳩と蛇[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』7月6日<<木下紋太>>

とげとげしい世間—権利主義と斗争主義—[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』21、7月11日<<無署名>>

労組幹部と日和見主義[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』7月15日<<木下紋太>>

日本の国際的進路とその対策『新政』1-6、7、7月21日、8月5日[7月11日座談会(於日本クラブ): 天羽英二、高山岩男、飯田清三、鍋山貞親、草野文雄、堀毛一麿、矢次一夫]

矢部貞治氏をかこんで 女性から見た政治・経済『新政経』22、7月21日[6月30日座談会: 村山りう、館種子、西脇りか]

民主主義と能率[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』22、7月21日<<無署名>>

憲法論ばかり[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』7月25日<<木下紋太>>

信頼される品性[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』23、8月1日<<無署名>>

保守再編に望む『文化と緑化』3-8、8月1日

座談会 社会党を叱る『民主社会主義』1-4、8月1日[座談会: 木村毅、阿倍静枝、麻生良方]

国会、面会、宴会[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』8月5日<<木下紋太>>

私は近代人です……[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』24、8月11日<<無署名>>

無責任政治の傾向[「国会を採点する 政治一般」]『読売新聞』8月12日

金と銀との楯[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』25、8月21日<<無署名>>

神話と暴力[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』8月25日<<木下紋太>>

立場は違うが…[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』26、9月1日<<無署名>>

朝鮮休戦を境に『中央公論』68-9、9月1日[座談会: 小林広勝、橘善守、林三郎、福井文雄]

中央地方の行政改革『文化と緑化』3-8、9月1日[座談会: 鈴木俊一、愛川重義]

世界史の動向と米ソの対立『新政』1-10、9月5日[座談会: 高山岩男、鍋山貞親、鈴木成高、古沢磯次郎、湯沢三千男、矢次一夫]

MSAは出直せ[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』9月8日<<木下紋太>>

悪法を法からなくす[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』27、9月11日<<無署名>>

ふるさと頌『大因伯』32-9、9月15日

世界分割ニューロック[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』9月20日<<木下紋太>>

新機構の内務省を設置せよ[「特集 行政改革に望むもの」]『経済往来』5-10、10月1日

民主主義と愛国心[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』29、10月1日<<無署名>>

誰の責任なのか[「一日大臣の抱負」]『新政経ニュース』29、10月1日

強力政治体制の要望『文化と緑化』3-10、10月1日

国際情勢とアジアの進路『新生亜細亜』1-1、10月5日

繁栄と民主主義[「デモクラシー手帳」]『新政経ニュース』30、10月11日<<無署名>>

右社の混迷[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』10月13日<<木下紋太>>

民主主義と福祉国家[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』31、10月21日<<無署名>>  
朝な夕なに雑草を抜け『公明選挙時報』26、10月25日  
強力政治体制の要望『文化と緑化』3-10、10月25日  
二十九年度予算の焦点『文化と緑化』3-10、10月25日[座談会：森永貞一郎、石野信一、佐竹浩、土屋清、井上縫三郎、愛川重義、平岡敏男、白神勤、福良俊之]  
国会議員は県会議員か[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』10月31日<<木下紋太>>  
民主主義と労働組合[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』32、11月1日<<無署名>>  
吉田首相の国会論理学『読売新聞』11月8日  
左社は共産に通ず[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』11月13日<<木下紋太>>  
階級政党について[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』34、11月21日<<無署名>>  
防衛と各政党の態度『文化と緑化』3-11、11月25日  
増額修正・議員立法・常任委員会制度『文化と緑化』3-11、11月25日[11月12日座談会(於虎ノ門藤森)：大西邦敏、灘尾弘吉、植木庚子郎、古井喜実、石野信一、佐藤一郎、井上縫三郎、土屋清、福良俊之、愛川重義、浅見耕士]  
政党を斬る 第一回 改進黨は消え去るか?『文化と緑化』3-11、11月25日[11月11日座談会(於虎ノ門藤森)：御手洗辰雄、愛川重義]  
国会運営の盲点つく 議員立法と予算増額修正問題『新政経』35、12月1日[11月19日座談会(於日本クラブ)：愛川重義、中村建城、関未代策、湯沢三千男、武村忠雄、清水重夫]  
改良と革命[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』35、12月1日<<無署名>>  
万年国会非なり[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』12月6日<<木下紋太>>  
終末思想[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』36、12月11日<<無署名>>  
政界一年の回顧『早稲田学報』7-10、12月15日  
政治をいかに立て直すか『東洋経済新報』2606、12月19日[鼎談：蟬山政道・岩淵辰雄]  
改進黨のニジの橋[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』12月20日<<木下紋太>>  
協力は政策本位で 無理な政権工作止めよ[「月曜評壇」]『西日本新聞』12月21日  
議院内閣制に於ける国会と内閣『文化と緑化』4-1、12月25日  
減税とその背景『文化と緑化』4-1、12月25日[12月6日座談会：木暮武太夫、山田義見、井上縫三郎、土屋清、福良俊之、白神勤、愛川重義、平岡敏男、円城寺次郎]  
政党を斬る 第二回 吉田政権の危機と自由党の性格『文化と緑化』4-1、12月25日[12月4日座談会(於星ヶ丘)：阿部真之助、愛川重義、平岡敏男、井上縫三郎]

## 1954 (昭和 29) 年

最近の国際情勢について『教養の葉』3-1、1月1日  
わが国の防衛と憲法『新政経』37、1月1日[12月5日座談会(於日本クラブ)：井上縫三郎、平岡敏男、中村建城、土屋清、清水重夫]

民主主義の人間観[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』37、1月1日<<無署名>>

考えられる四つの道—繁栄譜の完成と研究の対象を吟味せよ—[「発足 8年目を迎えて」]『PHP』75、1月1日

政界に提唱する『日本経済新聞』1月3日[12月18日座談会：蟬山政道、小汀利得、白洲次郎]

国を愛する心『光と愛敬』21-1、1月3日[千田金二編『光と愛・敬』収録]

国会の専制防御[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』1月7日<<木下紋太>>

民主主義の認識論[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』38、1月11日<<無署名>>

民主主義と能率[1953年10月7日全国市長会主催都市職員研修速記録]『市政』3-1、1月15日

人間は何物の道具でもない[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』39、1月21日<<無署名>>

知事『官選』論の登場[「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』1月24日<<TX>>

本年の政治課題『文化と緑化』4-2、1月25日

政党を斬る 社会党右派は一代限りか『文化と緑化』4-2、1月25日[座談会：鍋山貞親、下岡敏男、井上縫三郎]

国会の自粛『西日本新聞』1月30日

個人と団体[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』40、2月1日<<無署名>>

利権政治の中心点[「常任委制度の廃止」]『産業経済新聞』2月8日

イギリス 法と世論が防壁 利権法案を作る余地なし[「政治と金」]『毎日新聞[夕刊]』2月10日

自由と平等[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』41、2月11日<<無署名>>

文人の虚栄[TX、「無人機」]『毎日新聞[夕刊]』2月13日

自由平等と公共福祉[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』42、2月21日

政官界の腐敗と民主主義の将来『文化と緑化』4-3、2月25日

政党を斬る 左派社会党と独裁主義『文化と緑化』4-3、2月25日[座談会：直井武夫、土屋清、愛川重義、井上縫三郎]

民主主義と階級闘争『経営者』8-3、3月1日

国会に何を望むか『新政経』43、3月1日[2月16日座談会(於大丸水曜クラブ)：湯浅佑一、浅田敏章]

自由民主主義と協同民主主義[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』43、3月1日

首相たる者の資質と性格[「首相論」]『別冊東洋経済』1、3月1日

世論の監視がトリゲ[「腐敗政治を收拾するには」]『西日本新聞』3月3日

汚職問題をめぐって『新政経』44、3月11日[座談会(於日本クラブ)：高山岩男、木村剛輔、赤松要、平岡敏男、井上縫三郎、松岡駒吉、清水重夫]

社会民主主義と民主社会主義[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』44、3月11日

政治の空白をいかに解消するか[「時評」]『読売新聞』3月15日[『1955年版時事論文 経営評論臨時増刊』(大蔵出版、1954年9月1日)収録]

[参考人意見]『第19回国会衆議院議院運営委員会議録』28、3月15日

政党のあり方[「政治をよくするために」]『中部日本新聞』3月16、17日

自由主義と民主主義[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』45、3月21日

新生政治への道『文化と緑化』4-4、3月25日

政局收拾と政界刷新『文化と緑化』4-4、3月25日[座談会：野村秀雄、御手洗辰雄、愛川重義]

政界を如何にして浄化するか 小選挙区制と政治資金の合理化『東洋経済新報』2618、3月27日[3月19日座談会：牧野良三、岩淵辰雄]

憲法改正上の諸問題『主張と解説』4-7、4月1日

民主主義と相対主義[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』46、4月1日

「ローマは売りに出ている」『新生亜細亜』2-4、4月5日

国会はどうあるべきか『新政経』47、4月11日[3月20日座談会(於日本クラブ)：増田甲子七、三木武夫、三輪寿壮]

民主主義と暴力[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』47、4月11日

国家と青年『主張と解説』4-8、4月15日

政界刷新の具体的方策『文化と緑化』4-5、4月25日

保守新党はいかにあるべきか『文化と緑化』4-5、4月25日[座談会：灘尾弘吉、浜田幸雄、古井喜美、広瀬正雄、井上縫三郎、愛川重義、福良俊之]

新政経の歩む道『新政経ニュース』48、5月1日

便乗的統一は急ぐな 地に足のついた良識持て[「各政党を批判する 右派社会党」]『毎日新聞』5月7日

道徳と平和[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』49、5月11日

冷戦と政治体制『外交春秋』11、5月15日

基本的人権[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』50、5月21日

参議院これでよいか『河北新報[夕刊]』5月23日

選挙制で特質生かせ 参議院はこれでよいか[「月曜評壇」]『西日本新聞』5月24日

保守新党論『文化と緑化』4-6、5月25日

政治の現状を語る『文化と緑化』4-6、5月25日[座談会：阿部真之助、御手洗辰雄、鍋山貞親、愛川重義、井上縫三郎]

小選挙区論『選挙』7-6、6月1日

目的を話さないのは無責任[「首相外遊へ一言」]『毎日新聞』6月3日

議決の有効性疑問[「乱闘衆議院を批判する」]『東京新聞』6月4日

乱闘国会と民主政治『西日本新聞』6月5、6日[対談：大宅壮一]

国会が判定を[「会期延長 有効か無効か」]『読売新聞』6月5日

"与党国会で生まれた法律"[談]『読売新聞』6月8日

議会政治擁護のために『新政経ニュース』52、6月11日

民主政治の諸形態[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』52、6月11日



社会党の統一[「国会解散後どうなる」]『河北新報』6月15日  
大西教授の卓論[大西邦敏「憲法改正はなぜ必要か」の「推薦の辞」]『講演』758、6月15日  
断じて議会政治を守れ『全労』87、6月15日  
議院内閣制と大統領制[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』53、6月21日  
国会は解散すべし『ダイヤモンド』42-26、6月21日  
専制と独裁[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』54、7月1日  
汚された議会政治『政界ジープ』9-7、7月1日  
国会乱闘と民主社会主義『民主社会主義』15、7月1日  
日華事変に寄せて『新生亜細亜』2-7、7月5日  
汚職と暴力の根源をただせー新党運動に寄すー『文化と緑化』4-7、7月10日  
国会乱闘の背景と民主政治の危機『文化と緑化』4-7、7月10日[座談会：井上縫三郎、岩淵辰雄]  
指導者と支配者[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』55、7月11日  
一党独裁[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』56、7月21日  
真相を発表せよ 民主政治で許されぬ処置[談]『朝日新聞[夕刊]』7月30日  
一党の独裁[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』57、8月1日  
今こそ民主政治を『婦人画報』600、8月1日  
政党法について『文化と緑化』4-8、8月10日  
[記事「広がる吉田暴言の波紋」中の談]『毎日新聞』8月11日  
政治道義全くなし 出たところ勝負の政策[「吉田政治を衝く」]『京都新聞』8月16日[インタビュー]  
政局の動向と労働運動の展望『海員』6-9、9月1日[7月23日座談会：三宅正輝、井上縫三郎、和田春生、増原操、木畑公一]  
憲法改正の重点「現行憲法は前世紀の遺物」『時局』23-8[198]、9月1日  
社会党の綱領問題『主張と解説』4-17、9月1日  
民主主義とは何か『PHP』82、9月1日  
吉田政治と訣別の秋『文化と緑化』4-9、9月10日  
政治の刷新と労組のあり方 イギリス労働党の来日を中心として『文化と緑化』4-9、9月10日[座談会：鍋山貞親、関嘉彦、土屋清、井上縫三郎]  
決算委をめぐる乱脈政治『全労』96、9月15日  
言論官製は独裁の道『読売新聞』9月17日  
直言して首相外遊を送る『産業経済新聞』9月26日  
風格[「教師のらくがき」]『時事新報』9月29日  
[参考人意見]『[第19回国会衆議院内閣委員会議録]』43、9月30日  
現代政党の基本的理念『文化と緑化』4-10、10月10日

誠実な占領の決算書 H・E・ウイルソン博士の『東京旋風』[書評]『時事通信 時事解説版』2685、10月12日

経済の平等化[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』60、10月21日

政策と信念 準備会にほしいもの[「新党問題 嵐に立つ保守陣営」]『京都新聞』10月22日

新党のとるべき道『中部日本新聞』10月25日

政局随想『市政』3-11、11月15日

首相帰国と政局の転換[「北日本論壇」]『北日本新聞』11月18日

民主政治のルール[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』61、11月21日

政治行動の筋目を通せ『読売新聞』11月29日

現在の政局をどう考えるか『新聞論調』43、11月[11月7日 NHK 政治座談会：河原田稼吉、苫米地義三、片山哲、有田八郎]

明治人の気概—忘れ得ぬ学者—『文芸春秋』32-18、12月1日

遅きにすぎた反省[「吉田首相の所信演説」]『毎日新聞』12月1日

国民に目標を示さず「出たところ」政治に希望なし[「吉田政治の功罪」]『大阪新聞』12月7日

後継首班にもの申す[「風神」]『産業経済新聞[夕刊]』12月9日

日本の主体性『文化と緑化』4-12、12月10日

政権交代のルール『西日本新聞』12月12日

“本腰入れて実行を”[「識者の意見を聞く」]『産業経済新聞』12月12日

前に向かって進もう『親和』14、12月15日

次期政権への常道『読売新聞』12月18日

政界革新の道[12月7日新政経公開講演会講演要旨於明大講堂]『新政経ニュース』62、12月21日

悪政に終止符を打て『ダイヤモンド』42-52、12月21日[対談：木内信胤]

## 1955（昭和30）年

ルールのない政治[「政治時評」]『財政』20-1、1月1日

理念のない政治『文化と緑化』5-1、1月1日

1955年の焦点 憲法 改正賛成『北海道新聞』1月1日

政界の課題と見通し『[大阪]読売新聞』1月3日[座談会：御手洗辰雄、武者小路実篤]

激動する新春政局『大阪新聞』1月6日[12月25日座談会：阿部真之助、鍋山貞親]

[「特集 総選挙結果を予見する 評論家7人の侍」に聞く]『サンデー毎日』34-3、1月9日

吉田内閣退陣と総選挙の展望『主張と解説』5-2、1月15日

総選挙を前にして『全労』108、1月15日

左派社会党論『河北新報』1月18日

政治の岐路に立って『新政経』63、1月21日[1月10日座談会(於日本クラブ):土屋清、愛川重義、井上縫三郎]

投票の倫理[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』63、1月21日

公明選挙の本質『西日本新聞』1月24日

今次総選挙の意義『読売新聞』1月25日

庶政一新・自立の時が来たー福祉国家の実現に努力をー『国民』656、2月1日

[「総選挙でなに党が勝つか」]『実業之日本』58-3、2月1日

総選挙後の政局[「政治時評」]『財政』20-2、2月1日

総選挙の課題『文化と緑化』5-2、2月1日

総選挙縦横談『文化と緑化』5-2、2月1日[座談会:野村秀雄、稲葉秀三、土屋清、佐倉潤吾、愛川重義、中村新]

総選挙最大の意義 日本転向の岐路『産業経済新聞』2月2日

日本の行くべき道『新生亜細亜』3-2、2月5日

形式、内容とも改正の要[「憲法は改正すべきか」]『西日本新聞』2月14日

総選挙と政局の展望『大因伯』34-2、2月15日

[「私は民社党を支持する」]『朝日新聞』2月16日

今週の問題『東洋経済新報』2663、2月19日[匿名座談会:Z政治評論家=矢部、『矢部日記』1955年2月8日、参照]

浮動票を食う民主党[「総選挙結果 第二次予想 著名政治評論家五氏の観測」]『サンデー毎日』34-9、2月20日

党争は水際まで[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』64、2月21日

今後の政界はどう動くか『新聞論調』59、2月28日[NHK政治座談会:阿部眞之助、御手洗辰雄]

平和共存への道『地上』9-3、3月1日[対談:長谷川才次]

保守党に与う[談]『東京新聞』3月1日

国民の審判と政局收拾の道『西日本新聞』3月1日

新政局に望む『文化と緑化』5-3、3月1日

総選挙は何を示したか『毎日新聞』3月2日

今後の政治どうあるべきか『読売新聞』3月2、3日[座談会:御手洗辰雄、野村秀雄]

青年と政治ー民主政治のあり方『健青通信』81、3月15日

新政界地図と労働運動『日経連タイムス』345、3月17日[座談会:井上縫三郎、江幡清、荒川鶴松]

旧態依然たる乱脈国会『読売新聞』3月19日

社党にしてやられる公算大[「山陽時評」]『山陽新聞』3月21日

比較多数党政権と国会の運営[「中日評論」]『中部日本新聞』3月28日

[「総選挙と政局」]『国論』3-3、4月1日

第二次鳩山内閣と革新政党『主張と解説』5-7、4月1日

鳩山内閣に与ふー外交問題を中心に『文化と緑化』5-4、4月1日

占領政策の所産 被管理から自主独立へ[「憲法は改正すべきか」]『京都新聞』4月3日

今週の問題『東洋経済新報』2671、4月9日[匿名座談会：Y政治評論家＝矢部、『矢部日記』1955年3月29日、参照]

西欧民主主義は亡びるかーリップマンの新著"Public Philosophy"を読んで『世界週報』36-11、4月11日

保守結集の成否[「山陽時評」]『山陽新聞』4月18日

宰相、大いに政治を語る 矢部貞次氏との放送対談から『時事通信 時事解説版』2842、4月23日[対談：鳩山一郎。4月18日NHK放送「鳩山首相にきく」の全文掲載]

就任のことば『拓殖大学]学友会々報』144、4月25日

政治のあり方と政局のゆくえ『新政経』66、5月1日[対談：阿部真之助]

シッペ返しの倫理性[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』66、5月1日

国会に望む『文化と緑化』5-5、5月1日

予算案を中心としての国会を斬る『文化と緑化』5-5、5月1日[座談会：福田赳夫、周東英雄、福良俊之、愛川重義、白神勤、井上縫三郎、土屋清]

自主憲法を持とう『産経時事』5月3日

被管理から独立へ 占領政策の遺物は『追放』[「憲法は改正すべきか」]『西日本新聞』5月3日

保守結集と社会党統一『読売新聞』5月8日

社会党の統一綱領[「山陽時評」]『山陽新聞』5月16日

パリで会った横光氏『文芸』12-8、5月25日

静かだった英総選挙戦『毎日新聞』5月28日

英総選挙を見る『読売新聞[夕刊]』5月28日[対談：高橋雄豺]

国民的と階級的[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』67、6月1日

英国の総選挙を観て『選挙』8-6、6月1日[座談会：兼子秀夫、坂千秋、松崎権四郎、高橋雄豺、池松文雄]

憲法改正か憲法擁護か[5月3日ラジオ東京放送]『東京だより』71、6月1日[座談会：片山哲、海野晋吉、鍋山貞親、芦田均]

英国の総選挙を視察して 矢部博士を囲んでの座談会『文化と緑化』5-6、6月1日[座談会：6月14日於藤森。愛川重義、佐倉潤吾、福良俊之、白神勤、井上縫三郎]

保守革新政党の合同問題をめぐって『文化と緑化』5-6、6月1日[座談会：山浦貫一、福良俊之、井上縫三郎、愛川重義]

英国みたま『日本海新聞』6月12日

政策を忘れた"茶番劇" 保守新生運動の方が急務[「保守合同を批判する」]『毎日新聞』6月30日

現下の政治・社会情勢『関西経協』9-7、7月1日

英国総選挙に思う『新政経ニュース』68、7月1日  
公共の原理[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』68、7月1日  
イギリスの政党を見る『世界週報』36-19、7月1日[『日本政治の反省』収録]  
政治時評『知性』2-7、7月1日  
英総選挙の実状 訪英の旅から『中外政経』2-6、7月1日  
英国の選挙 保守党が勝ったのは[談]『光と愛敬』22-7、7月3日  
英国の総選挙を視察して『自治大阪』6-7、7月10日  
社会党統一の目途 浅沼左社書記長との対談から『読売新聞』7月10日[対談：浅沼稻次郎]  
政治記事と外電について－モニター座談会－『読売モニター』27、28、7月20、30日[座談会：井沢弘、清水宗兵衛]  
魅力ある保守党『文化と緑化』5-7・8、8月1日  
日本の中立は果して可能か『文芸春秋』33-15、8月1日[座談会：長谷川才次、寺岡洪平、堀江薫雄、入江啓四郎]  
[「労使関係を正すには?」]『経営者』9-1、9月1日  
歩んできた道 進むべき道『新政経』70、9月1日[対談：松下幸之助]  
私の夢－日本の反省－[文責在記者]『新日本経済』19-9、9月1日  
日本の政治はこれでいいか『文化と緑化』5-9、9月1日  
社会党の統一綱領[「時評」]『読売新聞』9月9日  
神経中枢の狂い[巻頭言]『民主政治』3、9月10日  
佐川町問題[「ざっくばらん」]『日経連タイムス』371、9月22日  
日本の当面する基本的諸問題『警友ととり』14、9月25日  
世民研と私『主張と解説』5-19、10月1日  
統一後の社会党に望む『文化と緑化』5-10、10月1日  
日本の国際的在り方『海外通信』3-10、10月5日  
茗荷谷通信の意義『茗荷谷通信』1<『海外通信』3-10付録>、10月5日  
[「統一社会党に何を望むか」]『社会思想研究』7-10、10月15日  
[「新党総裁の「適性検査」－鳩山・緒方を採点する－ 各界アンケート」]『月刊読売』14-42、10月23日  
日本外交の大道－辺側外交を清算せよ－『新日本経済』19-11、11月1日  
民主主義と公共の原理『拓殖大学論集』9、11月1日[『日本政治の反省』収録]  
日ソ交渉はどこで手が打たれるか『婦人倶楽部』36-11、11月1日[対談：長谷川才次]  
総裁公選にこう思う『中部日本新聞』11月3日  
二大政党制の基本条件 民主・議会政治のルール守れ『産経時事』11月13日  
[「アンケート 統一社会党に望むもの」]『官公労働』9-11、11月15日

社会党統一のその後『経営者』9-12、12月1日[座談会：磯部忠男、太田博夫、土屋清、後藤浩、松本龍二]

職務への忠誠[「デモクラシー手帖」]『新政経ニュース』72、12月1日

保守政党論『新論』1-6、12月1日[『日本政治の反省』収録]

保守新党に与う『文化と緑化』5-12、12月1日

保守新党の誕生と閣僚批判『文化と緑化』5-12、12月1日[座談会：御手洗辰雄、井上縫三郎、愛川重義]

統一社会党綱領の批判[談・文責在記者]『主張と解説』5-24、12月15日

日本の国連加盟除外 新事態にどう対処する『読売新聞』12月16、17日[座談会：須磨弥吉郎、曾禰益]

内閣権限を強化せよ 国会万能改める時『東京新聞』12月22日

## 1956 (昭和 31) 年

数の政治より理の政治[「政治評論」]『山陽新聞』1月1日

「いぬ」についての断想『主張と解説』5-25、1月1日

二大政党にはなったが『新政経ニュース』73、1月1日

新春政界への提言『文化と緑化』6-1、1月1日

今年の国際情勢と政治経済の展望『文化と緑化』6-1、1月1日[座談会：井上縫三郎、土屋清、福良俊之、白神勤、愛川重義]

どう動く？今年の政局『産経時事』1月4日[座談会：阿部真之助、鍋山貞親、細川隆元]

日本の希望と日本政治『海外事情』4-1、1月5日

議会運営が焦点 二大政党の良識にまつ[新年度の展望 政治]『全労』140、1月5日

二大政党論『風声』3-1、1月10日

イギリスの政党と日本の政党『北海道自治』6-1、1月10日

新春雑談 日本の政治を診断する『民主政治』2-1、1月10日[座談会：神川彦松、弓家七郎、大西邦敏]

小選挙区制度賛成 二大政党への土台 理解出来ぬ社会党の反対『読売新聞』1月11日

二大政党対立のあり方『先見経済』543、1月25日

反対意見と民主主義『新政経ニュース』74、2月1日

再開国会の一週間『産経時事』2月5日

議会政治の安定を[「小選挙区制をめぐる」]『全労』144、2月5日

政界の動向とその批判『話』13、2月15日

二大政党について『経済論壇』2-3、3月1日

憲法擁護の態度『新政経ニュース』75、3月1日

憲法改正と小選挙区『文化と緑化』6-3、3月1日

政治家としての緒方さん[「緒方さんを偲ぶ」 『文化と緑化』 6-3、3月1日  
すべてか無か[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 3月5日  
選挙区の連鎖反応[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 3月12日  
天下第一等[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 3月19日  
激突する小選挙区案 『東京新聞[夕刊]』 3月23～26日(『読売新聞[夕刊]』 3月23～26日)[座談会：河島  
正次郎、勝間田清一]  
黙殺された調査会案 『河北新報』 3月25日  
尊重されない審議会[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 3月26日  
選挙区制と党略 『新政経ニュース』 76、4月1日  
天を恐れよーとくに政府与党に望むー 『文化と緑化』 6-4、4月1日  
人物のスケール[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 4月2日  
時の動き 国内編 『学生週報』 9-2、4月7日  
残飯主義？[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 4月9日  
国内情勢 『学生週報』 9-3、4月14日  
育ため 『議会制度』 党利党略強い日本の政党[「批判と意見」] 『河北新報』 4月16日  
スポーツと政治[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 4月16日  
国内情勢 『学生週報』 9-4、4月21日  
李下のかんむり[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 4月23日  
根本的な反省が必要 建設的に討論つくせ[談、「踏み外された国会審議の常道」] 『山陽新聞』 4月23日  
[公述人意見] 『第24回国会衆議院公職選挙法改正に関する調査特別委員会公聴会議録』 1、4月23日  
[公述人意見] 『第24回国会衆議院公職選挙法改正に関する調査特別委員会公聴会議録』 2、4月25日  
国内情勢 『学生週報』 9-5、4月28日  
三千円もうけた話[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 4月30日  
小選挙区制度の歴史 『主張と解説』 6-9、10、5月1、15日  
議会政治と国民性 『新政経』 77、5月1日  
[「憲法をめぐる二つの立場」] 『地上』 10-5、5月1日[雑誌社の質問に対して、憲法改正を支持する立場  
から回答、現行憲法を擁護する立場からは中村哲が回答]  
政局の前途と政治のあり方 『文化と緑化』 6-5、5月1日  
危機に立つ国会 『文化と緑化』 6-5、5月1日[座談会：古井喜美、福良俊之、愛川重義]  
民主政治の倫理性 『海外事情』 4-5、5月5日[『日本政治の反省』収録]  
言を知り黙を知る[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 5月7日  
自主憲法が目指すもの 『民主政治』 8～10、5月10日、6月10日、7月10日  
鳥の声を聞く[「風神」] 『産業時事[夕刊]』 5月14日

小選挙区制を論ず『ジュリスト』106、5月15日[座談会：鈴木俊一、鈴木義男、田中二郎、宮沢俊義、  
嶺山政道]

多数の横暴と少数の横暴[「山陽時評」]『山陽新聞』5月18日

日ソ交渉と国内政局『東京新聞』5月18、19日[座談会：佐藤栄作、西尾末広]

言語道断の乱脈ぶり[談]『読売新聞』5月19日

ワッショイ国会[「風神」]『産業時事[夕刊]』5月21日

「小選挙区制に対する意見」の衆院選挙法特別委員会公聴会の公述人としての意見『国会旬報』2-30、5  
月25日

追いこまれた日ソ交渉『全労』155、5月25日

外交か内交か[「風神」]『産業時事[夕刊]』5月28日

参議院選挙に臨んで『新政経』78、6月1日

議会政治の危機[談]『中部日本新聞』6月1日

二大政党下の国会運営『文化と緑化』6-6、6月1日

日ソ交渉と鳩山内閣『文化と緑化』6-6、6月1日[座談会：岡崎勝男、愛川重義、白神勤、井上縫三郎、  
佐倉潤吾]

国内情勢『学生週報』9-10、6月2日

話し合いに共通の土台を 議会政治の崩壊を憂う [「時評」]『読売新聞』6月3日[御手洗辰雄・野依秀市  
編『革命寸前 社会党の暴力に抗議す』(実業之世界社、1956年6月25日)収録]

「暴力国会」と今後の政治『河北新報』6月4~7日[座談会：岩淵辰雄、大宅壮一]

党を結び群をなす[「風神」]『産業時事[夕刊]』6月4日

民主主義における階級関係について『なにわ』6月5日

国内情勢『学生週報』9-11、6月9日

南千島の「潜在主権」交渉が眼目[「日ソ国交回復への提言」]『東洋経済新報』2731、6月9日

集団指導と一党独裁[「風神」]『産業時事[夕刊]』6月11日

二院制と参議院のあり方 衆議院の誤りを正す 政党色の排除が必要『毎日新聞』6月15日

国内情勢『学生週報』9-12、6月16日

ヒモつき国会議員[「風神」]『産業時事[夕刊]』6月18日

国内情勢『学生週報』9-13、6月23日

政治と国民性[「風神」]『産業時事[夕刊]』6月25日

国内情勢『学生週報』9-14、6月30日

議会政治の崩壊を憂う[「特集 暴力国会と社会党」]『経済時代』21-7、7月1日

現代政治の動向[6月8日講演於松本市教育会総集会]『信濃教育』835、7月1日

国会と利益代表『新政経』79、7月1日

民主政治に望みなきに非ず『新政経』79、7月1日[座談会：関末代策、阿部真之助、八木秀次、武村忠



雄、高山岩男、下村海南、町田辰次郎、清水重夫]

暴力を排斥する『文化と緑化』6-7、7月1日

暴力国会と参議院選挙『文化と緑化』6-7、7月1日[座談会：白神勤、福良俊之、愛川重義]

三つの墓[「風神」]『産業時事[夕刊]』7月2日

選挙というもの[「風神」]『産業時事[夕刊]』7月9日

囚われの主権者となるなかれ『自治大阪』7-7、7月10日

薄れた二院制の特質 全国区に再検討必要『河北新報』7月11日

二大政党にわかれ参院が衆院化 全国区制再検討要す[「参院選の結果をこうみる」]『日経連タイムス』411、7月12日

議会政治の在り方『主張と解説』6-14、7月15日

日ソ交渉に望む『東京新聞』7月15、16日[座談会：須藤弥吉郎、青木均一]

無用にして有害か[「風神」]『産業時事[夕刊]』7月16日

二元外交の現状[「山陽時評」]『山陽新聞』7月18日

政党はこう進め『産経時事』7月19～21日[座談会：野村秀雄、青木均一]

花いっぱい[「風神」]『産業時事[夕刊]』7月23日

「労組中心」からの脱皮[「風神」]『産業時事[夕刊]』7月30日

参議院選挙の批判『主張と解説』6-15、8月1日

自由民主党の反省を促す『自立・文化と緑化』6-8、8月1日

参議院選挙後の政局『自立・文化と緑化』6-8、8月1日[座談会：唐島基智三、愛川重義、福良俊之、井上縫三郎]

有権者の政治意識『新政経』80、8月1日

岐路に立つ議会政治－参院選挙の結果を顧みて－[講演要旨]『新政経』80、8月1日

民主政の理念と現実『日本及日本人』7-8、8月1日

福祉国家の完成まで歩みを更に進めよう[「PHPに寄せる」]『PHP』100、8月1日

[書簡「響(来簡抄)」]『互尊』32、8月15日

[「アンケート 私は社会主義をこう考える」]『社会思想研究』8-8、8月15日

政治と教育『月刊教育』5-7、9月1日

政党の反省『新政経』81、9月1日

金門島[「風神」]『産業時事[夕刊]』9月3日

保守党総裁は誰に 集団協体制以外にない[「山陽時評」]『山陽新聞』9月6日

保守党総裁論[「批判と意見」]『河北新報』9月10日

台湾の風物[「風神」]『産業時事[夕刊]』9月10日

二大政党下の政権交代[「寄書」]『毎日新聞[夕刊]』9月10日

低迷する政局の根底を衝く 未成熟な二大政党制の欠陥『ダイヤモンド』44-41、9月11日[インタビューへの回答]

幻影を追うなかれ 問題はソ連より国内体制『東京新聞』9月11日

学術の交流について『新国策』4-24、9月15日

学術文化の交流[「風神」]『産業時事[夕刊]』9月17日

裏道外交[「風神」]『産業時事[夕刊]』9月24日

社会党の政権要求 国民党への脱皮が先決[「山陽時評」]『山陽新聞』9月27日

两大政党に与うー最近の政情を顧みてー『経営者』10-10、10月1日

党首の選挙[「風神」]『産業時事[夕刊]』10月1日

国民政府を訪ねて『自立・文化と緑化』6-10、10月1日

時局放談『自立・文化と緑化』6-10、10月1日[9月19日座談会(於虎の門藤森):愛川重義、佐倉潤吾、福良俊之]

政党総裁の更迭『新政経』82、10月1日

"党議なくも仕方なし" [談]『朝日新聞』10月3日

皇室の血流る近衛文麿『特集文芸春秋 天皇白書』10月5日

社会党への注文『河北新報』10月6、7日[対談]

マルクス主義のない国[「風神」]『産業時事[夕刊]』10月8日

動乱から日本は何を学ぶか『東京新聞』11月9、10日[11月8日座談会:西尾末広、芦田均]

政治道徳の喪失[「日曜随想」]『京都新聞[夕刊]』10月14日

人質の悲劇[「風神」]『産業時事[夕刊]』10月15日

鳩山訪ソ後の政局[「政治の動き」]『市政』5-10、10月15日

失われている政治道義 政党は一味徒党に過ぎぬ[「山陽時評」]『山陽新聞』10月16日

ソ連の歓待振りに乗ぜられるな[「鳩山・ブルガーニン会談」]『東京新聞』10月16日

おこげ[「風神」]『産業時事[夕刊]』10月22日

旅先で想う[「風神」]『産業時事[夕刊]』10月29日

政権交代のルール『新政経』83、11月1日

[「私の気分の転換法」]『PHP』103、11月1日

国民政府訪問の感想『海外事情』4-11、11月5日

民主主義と天皇ー国民の中の天皇であることが必要ー『民主政治』14、11月10日

首相の帰国と臨時議会[「政治の動き」]『市政』5-11、11月15日

動乱から日本は何を学ぶか『講演時報』856、11月16日[11月8日座談会:西尾末広、芦田均]

非常識な政治ースト規正法の委員会不審議ー『山陽新聞』11月16日

民族主義の問題[「動乱をかく考える」]『文芸春秋』34-13、11月20日

後継総裁の課題[「山陽時評」]『山陽新聞』11月23日  
憂うべき保守政党『自立・文化と緑化』6-11、12月1日  
福祉政策の急務『新政経』84、12月1日  
蔣総統と台湾—国府の直面する課題—『新日本経済』20-12、12月1日  
怨に報いるに徳をもってせよ『光と愛敬』22-12、12月3日[千田金二編『光と愛・敬』収録]  
議会政治はこれでよいか『民主政治』15、12月10日[座談会：大西邦敏、唐島基智三]  
選出に原則が必要[「総裁はどう選ぶべきか」]『読売新聞』12月14日  
新総裁は何をなすべきか[「政治の動き」]『市政』5-12、12月15日  
保守党新総裁に与う『自立・文化と緑化』6-12[臨時増刊]、12月15日  
石橋新総裁に望む『河北新報』12月16、17日[対談：御手洗辰雄]  
石橋首相に進言する『東京新聞』12月23日

### 1957 (昭和 32) 年

石橋内閣に望むこと『自立・文化と緑化』7-1、1月1日  
石橋内閣を占なう—組閣の経過と政策及び派閥抗争—『自立・文化と緑化』7-1、1月1日[座談会：愛川重義、井上縫三郎、佐倉潤吾、浅見耕士]  
一九五七年・ことしの課題 内政 自主体制の強化『新政経』85、1月1日  
近代政党の在り方『東京新聞』1月1日[座談会：三木武夫、工藤昭四郎、勝間田清一]  
社会党は石橋政権にどう対処するか『産経時事』1月3日[対談：鈴木茂三郎]  
1959年の問題点 国内政治『[大阪]読売新聞[夕刊]』1月4日  
新年を迎えて想う—日本のとるべき基本コース—『海外事情』5-1、1月5日  
ふる里に寄せる『毎日新聞[鳥取版]』1月5日  
解散と政党[「山陽時評」]『山陽新聞』1月15日  
ことしの国内政治の焦点[「政治の動き」]『市政』6-1、1月15日  
社会党大会に望む『東京新聞』1月17日  
社会党大会を顧みて『日経連タイムス』438、1月24日  
石橋首相の五つの誓い『自立・文化と緑化』7-2、2月1日  
国会運営の正常化『新政経』86、2月1日  
世界権力政治の動兆と日本の進路—先ず政治の肅正と国民道義の作興から—『新日本経済』21-2、2月1日  
『新成人と選挙』座談会『選挙』10-2、2月1日[座談会：谷野せつ、福本春夫、前田多門、安積得也、兼子秀夫、坂西志保]  
共産主義思想には本来「民族」というものはない[「国際情勢の核心をつく三つの争点 第二問 共産主義の階級性と民族性について」]『婦人公論』42-2、2月1日

議会政治に背を向ける社会党[「政治の動き」]『市政』6-2、2月15日[『日本政治の反省』収録]

座談会 転換期の世界情勢『主張と解説』7-4～6、2月15日、3月1、15日[座談会：鍋山貞親、大野信三、高山岩男]

予算採決に出席必要 即時退陣の必要はない[「首相病気にどう対処すべきか」]『東京新聞』2月21日

予算を通し解散[「急転する政局 この政局をどう收拾すべきか」]『東京新聞』2月23日

政権から遠ざかる社会党[「二大政党時代における社会党の矛盾と弱点」]『実業之世界』54-3、3月1日

議事堂を捨てた社会党－社会党の左旋回について－『経済往来』9-3、3月1日

日本政治の現状批判－党利党略の泥仕合『主張と解説』7-5、3月1日

邪道を行く社会党『新政経』87、3月1日

国会議員の本質と任務『自立・文化と緑化』7-3、3月1日[『日本政治の反省』収録]

社会党の動向『自立・文化と緑化』7-3、3月1日[座談会：勝間田清一、関嘉彦、井上縫三郎、福良俊之、愛川重義]

石橋首相引退と岸新首相論『自立・文化と緑化』7-3、3月1日[座談会：勝間田清一、関嘉彦、井上縫三郎、福良俊之、愛川重義]

岸政権と政局[「山陽時評」]『山陽新聞』3月9日

岸政権の性格[「政治の動き」]『市政』6-3、3月15日

岸総裁に与う『中部日本新聞』3月22日

世界の情勢と日本の現状－三月九日局会議室の講演から－『蒼林』8-3、3月23日

伝記の集大成がほしい『時事出版通信』40、4月1日

伝記の集大成がほしい[「時事出版だより」]『時事通信 時事解説版』3424、4月1日

国会議員と地元選挙民『信州自治』10-5、4月1日

政党観の変遷『選挙』10-4、4月1日[『日本政治の反省』収録]

日韓相互理解のために『国際タイムス』50、4月5日

安保条約は改廃できるか[「政治の動き」]『市政』6-4、4月15日

民主政治の一大盲点－政党の内部状態－『自立・文化と緑化』7-4、4月15日[『日本政治の反省』収録]

岸内閣とその前途『自立・文化と緑化』7-4、4月15日[座談会：阿部真之助、唐島基智三、井上縫三郎、愛川重義]

『公共の哲学』ウォルター・リップマン著[4月12日、読書会解説大要、文責在記者。「読書会月報」]『新国策』5-11、4月15日

共通の場を持って[「躍動する社会党の"外交"」]『東京新聞』4月23日

安保条約・行政協定の改廃をめぐる『時の法令』240、4月23日[座談会：横田喜三郎、高辻正巳、西島芳二]

政党の矛盾『新政経』89、5月1日

感謝と責任をもつて－学窓に巣立つた若人に与う－『海外事情』5-5、5月5日

法の權威を失墜するな[「春闘処分をどう見るか」]『東京新聞』5月9日  
[「アンケート1 春闘闘争に思う」]『官公労働』11-5、5月15日  
岸首相の外遊をめぐって[「政治の動き」]『市政』6-5、5月15日  
岸首相の訪米に寄せて『自立・文化と緑化』7-5、5月15日  
国会を顧みて『東京新聞』5月18日  
政局座談会 世論と与・野党『産経時事』5月22～24、26、28日[座談会：三木武夫、浅沼稻次郎、阿部  
真之助、細川隆元]  
外交と党略『新政経』90、6月1日  
首相訪米と当面の諸懸案—安保条約はいかに改めらるべきか—『新国策』5-16、6月5日  
圧力政治とサンディカリズム[「政治の動き」]『市政』6-6、6月15日[『日本政治の反省』収録]  
外交を党略の具にするな『自立・文化と緑化』7-6、6月15日[『日本政治の反省』収録]  
岸訪米をめぐる政局『自立・文化と緑化』7-6、6月15日[座談会：三木武夫、愛川重義、井上縫三郎、  
佐倉潤吾、福良俊之]  
今後の日米関係 共同声明の意味するもの『読売新聞』6月23、24日[座談会：有田八郎、清瀬一郎]  
岸体制はどう展開するか『東京新聞』6月25～27日[座談会：唐島基智三、細川隆元]  
『岸体制』はどう展開するか『講演時報』886、7月1日[座談会：唐島基智三、細川隆元]  
岸首相を迎える 真に全党のリーダーたれ[「山陽時評」]『山陽新聞』7月1日  
組合の直接行動主義『新政経』91、7月1日  
岸帰国後の政局[「政治の動き」]『市政』6-7、7月15日  
内閣改造に望む『自立・文化と緑化』7-7、7月15日  
「平和共存」に強く警告[「蒋介石回顧録を読んで」]『毎日新聞』7月23日[「『自由世界の道』探究 大陸反  
攻論の根拠示す」]『大阪毎日新聞』7月23日]  
派閥の解消『新政経』92、8月1日  
社会党よどこへ行く『京都新聞』8月3～5日  
若人に望むもの『光と愛敬』24-8、8月3日[6月15日座談会：阿部賢一、及川古志郎、高山岩男。千  
田金二編『光と愛・敬』収録]  
友愛・協同主義の提唱—豊かな国民生活を築くために—『友愛社会』1-1、8月10日  
労組と教職員組合の新動向[「政治の動き」]『市政』6-8、8月15日[『日本政治の反省』収録]  
保守政党の在り方—岸訪米と内閣改造—『主張と解説』7-16、17、8月15日、9月1日  
岸首相に望む『自立・文化と緑化』7-8、8月15日  
岸新内閣批判『自立・文化と緑化』7-8、8月15日[座談会：唐島基智三、愛川重義、井上縫三郎]  
長期にわたる審議を[「憲法調査会発足に際して」]『東京新聞』8月16日  
19世紀的な現憲法[談]『熊本日日新聞』8月19日  
日本政治の反省 民主社会に共通な原理『公明選挙時報』114、8月25日[『話しあいの友(その二)』(助

言者用)』(公明選挙連盟、1961年3月15日)収録]

中国のなかのソ連—蒋介石回顧録を読んで—『海外事情』5-9、9月5日

公務員と政治活動[「政治の動き」]『市政』6-9、9月15日[『日本政治の反省』収録]

スケジュール闘争は国民生活破壊の行為[「各界は総評をこう批判する」]『ダイヤモンド』45-41、9月17日

日本とアジア『霞山倶楽部会誌』1-1、9月20日

汚職の追放『新政経』94、10月1日

岸首相の官僚主義を批判する『新国策』5-28、10月5日[座談会：鍋山貞親、高山岩男、矢次一夫]

違憲論ばかり[「石筆」]『東京新聞』10月7日

信頼される政治[「石筆」]『東京新聞』10月14日

解散は早くなるか[「政治の動き」]『市政』6-10、10月15日

政界「秋場所」の随想『自立・文化と緑化』7-10、10月15日

"地方制"に想う[「石筆」]『東京新聞』10月21日

区長は直接選挙に[「石筆」]『東京新聞』10月28日

政治はよくなったか『新政経』95、11月1日

革命四十周年[「石筆」]『東京新聞』11月4日

信なき岸政治[「時評」]『河北新報』11月11日

スローガンの信用性[「石筆」]『東京新聞』11月11日

「地方」制の構想打出さる『市政』6-11、11月15日[『日本政治の反省』収録]

新保守主義の哲学『自立・文化と緑化』7-11、12、11月15日、12月15日[『日本政治の反省』収録]

海外移住断想『大因伯』36-11、11月15日

臨時国会をかえりみて『日本海新聞』11月16日

首相の旅立ち[「石筆」]『東京新聞』11月18日

「アジア」の心に返れ[「時評」]『河北新報』11月25日

台湾との文化交流[「石筆」]『東京新聞』11月25日

日本政治の反省『進路』4-12、12月1日

日本共産党の生態『政治経済』4-12、12月1日[座談会：鍋山貞親、藤原弘達]

最近政局の裏のぞき 民主社会に共通の原理を『大山』3-12、12月1日

利益代表[「石筆」]『東京新聞』12月2日

台北訪問雑感—再び台湾を視察して—『海外事情』5-12、12月5日

第二院の特質を保て[「時評」]『河北新報』12月9日

社会党の運動方針[「石筆」]『東京新聞』12月9日

政権から遠のく社会党『日本海新聞』12月14日

参議院全国区制をどうするか[「政治の動き」]『市政』6-12、12月15日[『日本政治の反省』収録]  
石井副総理を囲んで『自立・文化と緑化』7-12、12月15日[座談会：石井光次郎、佐倉潤吾、井上縫三郎、土屋清、愛川重義]  
伊首相に進言する[「石筆」]『東京新聞』12月16日  
全国民的立場に立て[「時評」]『河北新報』12月23日  
過労の追放[「石筆」]『東京新聞』12月23日  
一月解散論[「石筆」]『東京新聞』12月30日

## 1958（昭和33）年

[「今年はやりたい 1958年・私のテーマ」]『社会運動通信』603、1月1日  
座談会 一九五八年・内外の展望『主張と解説』8-1～3、1月1、15日、2月1日[座談会：鍋山貞親、高山岩男、大野信三、井上縫三郎、草野文男]  
政治家は忙しすぎる『新政経』96、1月1日[座談会：浅沼稻次郎、三木武夫]  
『新しい階級』を読み『光と愛敬』25-1、1月3日[1957年11月11日座談会：阿部賢一、及川古志郎、高山岩男。千田金二編『光と愛・敬』収録]  
新社会原理としての協同主義『海外事情』6-1、1月5日[『日本政治の反省』収録]  
小選挙区制問題のこれから 実現の基本条件は何か『新国策』6-2、1月5日  
東京の目からみた鳥取県『毎日新聞[鳥取版]』1月5～8日[座談会：三橋誠、田子富彦、白井喬二]  
恐るべき政治不信[「時評」]『河北新報』1月6日  
解散はどうなる[「政治の動き」]『市政』7-1、1月15日  
新春随想『自立・文化と緑化』8-1、1月15日  
遠のいた解散『日本海新聞』1月19日  
政治に狂いはないか『河北新報』1月20日  
「日本政治の反省」『石川自治』110、2月1日  
圧力政治の限界『新政経』97、2月1日  
首相の指導力を疑う『河北新報』2月3日  
安定しない政局[「政治の動き」]『市政』7-2、2月15日  
岸首相に望むこと『自立・文化と緑化』8-2、2月15日  
政局はどう動く[鳥取経済クラブ主催時局講演会講演要旨]『大因伯』37-2、2月15日  
自民の部落会議盛ん『河北新報』2月17日  
政局の底流にあるもの[「日曜評論」]『夕刊岡山』2月23日  
社会党大会に与う『社会運動通信』610、2月24日  
総選挙待ちの政局『日本海新聞』2月24日

国会解散の論理『新政経』98、3月1日

よろめく岸首相[談話要旨]『大山』4-3、3月1日

わが外交体制の反省 よろめき外交を捨てよ[「山陽時評」]『山陽新聞』3月9日

社会党の構え[「政治の動き」]『市政』7-3、3月15日

外交体制はこれでよいか『自立・文化と緑化』8-3、3月15日[『日本政治の反省』収録]

政局打開の道『河北新報』3月28日

何が外交を弱体にするか『日本海新聞』3月28日

四月解散で政局を打開せよ[「日曜評論」]『夕刊岡山』3月30日

“選挙”はもう始まっている『東京新聞』4月2～5日[座談会：工藤昭四郎、山浦貫一]

青年学生に訴う『海外事情』6-4、4月5日

追いつめられた解散[「政治の動き」]『市政』7-4、4月15日

総選挙を待つ『自立・文化と緑化』8-4、4月15日

きたるべき総選挙の意義『日本海新聞』4月17日

解散から総選挙へ[「日曜随想」]『京都新聞[夕刊]』4月20日

こんどの総選挙の見どころ[「日曜評論」]『夕刊岡山』4月20日

総選挙 両党対決のキメ手 自民党『産経時事』4月20、21日[三木武夫へのインタビュー]

総選挙 両党対決のキメ手 社会党『産経時事』4月22、23日[勝間田清一へのインタビュー]

選挙はもう始まっている『講演時報』924、4月23日[座談会：工藤昭四郎、山浦貫一]

総選挙 両党対決のキメ手 両党の政策を聞いて『産経時事』4月24日

『総選挙とその後の予想』<資料4-4>自立経済調査会、4月28日[対談：御手洗辰雄]

「総選挙をこう見る」『実業之世界』55-5、5月1日

日本の政治のしくみ『新政経』100～105、5月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日

総選挙後の問題[「政治の動き」]『市政』7-5、5月15日

総選挙後の課題『自立・文化と緑化』8-5、5月15日

総選挙の教訓と今後の政情『自立・文化と緑化』8-5、5月15日[座談会：関嘉彦、井上縫三郎、土屋清、福良俊之、愛川重義]

小選挙区制の必要を痛感[「日曜評論」]『夕刊岡山』5月18日

新政局の行方『河北新報』5月26、27日[座談会：蠟山政道、御手洗辰雄]

新しい政局の課題『日本海新聞』5月28日

岸と池田の新勢力[「週間レーダー」]『週刊サンケイ』7-24、6月8日

新内閣と国会役員『河北新報』6月10日

慣行変更、話し合いにせよ “常任委員会の独占” 理屈はあるが…[「私の意見」]『毎日新聞』6月10日



議会政治の土俵の中で 総選挙後の政治課題『民主戦線』21、6月10日[対談：御手洗辰雄]

国会役員の独占 自民党のおおらかな態度望む[「私の意見」]『[大阪]毎日新聞』6月11日

岸新内閣に期待するもの『東京新聞』6月14～17日[座談会：工藤昭四郎、阿部真之助、天羽英二]

総選挙の結果と今後[「政治の動き」]『市政』7-6、6月15日

総選挙と今後の政局『主張と解説』8-12、6月15日

岸首相に注文する『自立・文化と緑化』8-6、6月15日

新内閣と今後の政策『自立・文化と緑化』8-6、6月15日[座談会：土屋清、井上縫三郎、佐倉潤吾、福良俊之、愛川重義]

岸・佐藤の同族内閣[「日曜評論」]『夕刊岡山』6月15日

党利党略をやめよ[「国会の醜態をこう見る」]『講演時報』931、6月16日

岸新内閣の性格『日本海新聞』6月17日

インナー・キャビネットへの疑問[「時評」]『読売新聞』6月22日[「インナー・キャビネット論の批判」と改題、『日本政治の反省』収録]

官僚政治に墮するな『河北新報』6月23日

岸新内閣に期待するもの『講演時報』932、6月23日[座談会：工藤昭四郎、阿部真之助、天羽英二]

五月選挙こぼれ話『自警』40-7、7月1日

総選挙を顧みて『自治時報』11-7、7月1日

日本の二大政党『政策研究』7月1日[『日本政治の反省』収録]

政局をどう見るか『選挙』11-7、7月1日[座談会：池松文雄、伊佐秀雄、吉田直治]

踏みはずした政治『河北新報』7月7日

特別国会の印象『日本海新聞』7月9日

官僚政治化の気配『市政』7-7、7月15日

小選挙区制と社会党『自立・文化と緑化』8-7、7月15日

勤評闘争は第二の内灘か[「日曜評論」]『夕刊岡山』7月20日

試練の外交三原則『河北新報』7月21日

よろめく外交三原則[「山陽時評」]『山陽新聞』7月27日

岐路に立つ中政連の方向 いっそのこと政党になれ[「時評」]『読売新聞』8月3日[「岐路に立つ「中政連」」  
と改題、『日本政治の反省』収録]

勤評闘争を直視せよ『河北新報』8月5日

泥沼の勤評闘争[「政治の動き」]『市政』7-8、8月15日[『日本政治の反省』収録]

安逸政治を戒めよ『自立・文化と緑化』8-8、8月15日

過労からの解放[「日曜評論」]『夕刊岡山』8月17日

私の政治信条の一端『日本青年学生問題研究会報』6、8月20日

反議会主義に走る社会党『河北新報』9月1日

最近の政治情勢について『樹木』8-9、10、9月1日、10月1日

日教組は折れよ 恒久策に教育行政委を[「勤評 收拾策はないのか】『東京新聞』9月14日

評定案内容の練り直しを[談]『読売新聞』9月14日

政治指導力の貧しさ『河北新報』9月15日

混迷の色濃い社会党[「政治の動き】『市政』7-9、9月15日

政治指導力を強化せよ『自立・文化と緑化』8-9、9月15日[『日本政治の反省』収録]

憲法調査会 1ヵ年の審議経過を顧みて『新国策』6-26、9月15日[9月8日座談会：細川隆元、矢次一夫]

教育を正道にかえせ『日本海新聞』9月17日

政治指導の貧しさ[「日曜評論】『夕刊岡山』9月21日

社会主義政党的行くべき道— 妙なイデオロギーから脱皮せよ— 『経済往来』10-10、10月1日

小選挙区制について『選挙』11-10、10月1日[『日本政治の反省』収録]

自由放任は教育ではない『光と愛敬』25-10、10月3日

安保条約改定の論理『河北新報』10月13日

政界秋の陣の背景[「政治の動き】『市政』7-10、10月15日

内乱への道を行く政界『自立・文化と緑化』8-10、10月15日[『日本政治の反省』収録]

世相を語る 第一回 警察官職務執行法改正案の諸問題『自立・文化と緑化』8-10、10月15日[座談会：坂井時忠、山口喜雄、土屋清、佐倉潤吾、福良俊之]

警職法をめぐって『産経新聞』10月17日[座談会：鍋山貞親、細川隆元]

このままでは内乱になる[「日曜評論】『夕刊岡山』10月19日

深まる内乱的様相『日本海新聞』10月24日

警職法は無理押しするな『河北新報』10月27日

民主主義と日本—共通の広場で国民道義を— 『大山』4-11、11月1日

理念を忘れた政治 一番大切な教育の問題はどうするか『PHP』127、11月1日

議会政治の基本線は守れ[「山陽時評】『山陽新聞』11月5日

警職法改正をめぐって『新国策』6-31、11月5日[座談会：御手洗辰雄、細川隆元、矢次一夫]

クーデターに等しい謀略的国会延長・議会政治は滅びる[「私の意見】『毎日新聞』11月5日[「謀略的国会延長、クーデターに等しい」と改題、『日本政治の反省』収録]

議長と首相をしかる『東京新聞』11月7日

話し合いの機能を発揮せよ[「議会政治の危機に直面 アンケート政局の現状について①】『東京新聞』11月8日

脱落分子の第三党不可[「第三党を期待すべきか アンケート政局の現状について②】『東京新聞』11月9日

踏みにじられた議会主義『河北新報』11月10日  
 説得力、指導力を欠く[「岸内閣の動向は アンケート政局の現状について③】『東京新聞』11月10日  
 潜在的な議会主義の否認[「社会党の態度批判 アンケート政局の現状について④】『東京新聞』11月11日  
 各国議会政治と国会『北海タイムズ』11月12、13日[座談会：池田潔、寺西五郎]  
 両党良識人の奮起 筋は通るが解散避けよ[「空白国会どう收拾する 識者に聞く】『山形新聞』11月12日  
 崩れ行く議会政治[「政治の動き】『市政』7-11、11月15日  
 変則国会の教訓『自立・文化と緑化』8-11、11月15日[『日本政治の反省』収録]  
 社会党よ、思い上げるな[「日曜評論】『夕刊岡山』11月16日  
 私の言葉[インタビューへの回答『週刊新潮』3-46、11月17日  
 変則国会の收拾『日本海新聞』11月19日  
 [「アンケート 政局の現状について】『講演時報』952、11月23日  
 変則国会の経験から学べ『河北新報』11月24日  
 望みなしか二大政党制『河北新報』12月8日  
 議会政治家はこれでよいか『民主戦線』1-8、12月10日[10月20日対談(於日本倶楽部)：御手洗辰雄]  
 不明朗な議長選考 期待はずれの「派閥人事」で『東京新聞』12月12日  
 石破新知事に望む『日本海新聞』12月13日  
 国会に苦言を呈する『自立・文化と緑化』8-12、12月15日  
 ガタガタの岸政権[「日曜評論】『夕刊岡山』12月21日  
 岸政権の末路『河北新報』12月22日  
 退いて党をまとめよ 内紛渦中の岸首相に勧告『東京新聞』12月29日  
 大衆に広い基盤を 社会党の党内論争について『毎日新聞』12月30日

## 1959 (昭和 34) 年

石破新知事に望む『[鳥取]県政だより』1月1日  
 二大政党制のゆくえ[「政治の動き】『市政』8-1、1月1日  
 自伝的随想『主張と解説』9-1、1月1日  
 民主政治の倫理 正しい議会主義を守る『新政経』106、1月1日  
 わが国の民主政治について『海外事情』7-1、1月5日[『日本政治の反省』収録]  
 第三政党論『産経新聞』1月5日[『日本政治の反省』収録]  
 新春政界放談 風雨強かるべし昭和三十四年一政局の今後をこう展望する一『新国策』7-1、1月5日[座談会：御手洗辰雄、矢次一夫]

福祉日本を目指し「主義」の亡霊から脱せよ[「日本の希望」]『読売新聞』1月5日[『最新時事論文集』(竜南書房、1959年7月)、「日本の課題と希望」と改題『日本政治の反省』収録]

失うな公民の品性[「日本の希望」]『[大阪]読売新聞』1月5日

中道に歩みよれ 二大政党の育成が本筋[「第三政党は必要か」]『大阪新聞』1月7日

現代日本の病状とその治療『民主戦線』1-9、1月10日[11月24日座談会(於日本倶楽部):大西邦敏、高山岩男、佐野博]

社会党の理論闘争について『国内情勢解説』33、1月13日[「社会主義と民主主義—社会党の理論闘争について—」と改題、『日本政治の反省』収録]

混迷の政局を打開せよ『自立・文化と緑化』9-1、1月15日[『日本政治の反省』収録]

池田勇人氏に主張を聴く 岸総理を信ずることは出来ない『自立・文化と緑化』9-1、1月15日[座談会:池田勇人、稲葉修三、土屋清、福良俊之、佐倉潤吾、愛川重義、白神勤]

座談会 一九五九年・日本の展望『主張と解説』9-2、3、1月15日、2月1日[座談会:鍋山貞親、大野信三、草野文男、高山岩男、風間丈吉]

ヨタヨタの政局『日本海新聞』1月17日

社会党の責任[「日曜評論」]『夕刊岡山』1月18日

総裁公選を見つめて『東京新聞』1月24日

岸総裁の再選[「山陽時評」]『山陽新聞』1月25日[『日本政治の反省』収録]

再出発の自民党『夕刊岡山』1月25日

社会党の性格論争[「政治の動き」]『市政』8-2、2月1日

[「各界アンケート 地方選挙に望む」]『自治時報』12-2、2月1日

社会主義者のジレンマ『新政経』107、2月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

池田勇人氏は語る 民主政治の在り方について『進路』6-2、2月1日[1月15日座談会:池田勇人、稲葉秀三、土屋清、福良俊之、佐倉潤吾、愛川重義、白神勤]

自伝的随想『海外事情』7-2、2月5日

[「アンケート 岸政権の信任を問う」]『月刊政治』87、2月8日

政局は安定せず『自立・文化と緑化』9-2、2月15日[『日本政治の反省』収録]

東畑移動大使に東南ア情勢を聴く 革命期の東南アジア十数ヶ国の内情『自立・文化と緑化』9-2、2月15日[座談会:東畑精一、福良俊之、愛川重義、平岡敏男]

新保守主義の政治哲学『新勢力』23、2月15日

知事選挙の教えるもの[「日曜評論」]『夕刊岡山』2月15日

日本は競売品ではない『日本海新聞』2月18日[『日本政治の反省』収録]

政局の前途にあるもの[「政治の動き」]『市政』8-3、3月1日

地方選挙のあり方『日本海新聞』3月14日

地方選挙に望む『自立・文化と緑化』9-3、3月15日[『日本政治の反省』収録]

日本社会党の内情を語る『自立・文化と緑化』9-3、3月15日[座談会:西尾末広、土屋清、福良俊之、

愛川重義、平岡敏男、白神勲]

- 地方選挙と社会党『全労』9、3月15日[『日本政治の反省』収録]
- 社党訪中使節団の狙い[「日曜評論」]『夕刊岡山』3月15日
- 近づく地方統一選挙[「政治の動き」]『市政』8-4、4月1日
- 政治座談会 日本の政治はこれでよいか『新政経』109、4月1日[座談会：愛川重義、土屋清]
- 鳩山一郎をしのぶ『東京だより』117、4月1日[座談会：林譲治、原彪、細川隆元、芦田均]
- 安保改定をめぐる狂想曲『日本海新聞』4月13日[『民主社会を支えるもの』収録]
- 外交と野党『自立・文化と緑化』9-4、4月15日[『民主社会を支えるもの』、鹿島守之助編『超党派外交』(鹿島守之助、1965年)収録]
- 政局の前途[3月16日講演於郵政省講堂]『話』51、4月15日
- 投票の前にもう一度考えよう[「日曜評論」]『夕刊岡山』4月19日
- 私学雑感『大学時報』7-20、4月20日
- 地方選挙と中央政局[「山陽時評」]『山陽新聞』4月28日
- 安保改定をめぐる動き[「政治の動き」]『市政』8-5、5月1日
- 清潔な政治 金力こそ民主政治の敵[「山陽時評」]『山陽新聞』5月10日
- 地方選挙の教訓『自立・文化と緑化』9-5、5月15日
- 放談『自立・文化と緑化』9-5、5月15日[座談会：阿部真之助、小汀利得、土屋清、福良俊之]
- 参議院選挙の見どころ[「日曜評論」]『夕刊岡山』5月17日
- 参議院のあり方と緑風会『産経新聞』5月20日[『大阪産経新聞』5月21日。『民主社会を支えるもの』収録]
- 参議院制度の問題点 ふさわしい人物を選ぶのが当面の課題『日本海新聞』5月21日
- 参院選の実態を衝く『東京新聞』5月25、26日[座談会：山浦貫一、細川隆元]
- [「伊達判決をどう思うか」]『国論』7-5、6月1日
- 地方選挙のあと味[「政治の動き」]『市政』8-6、6月1日
- 公共の道義を培え『北海警友』14-6、6月1日[『自警』から転載]
- 座談会 憲法調査会そのごの経過『新国策』7-16、6月5日[座談会：細川隆元、矢次一夫]
- 東京地裁の違憲判決とその問題点『民主戦線』2-6、6月10日[座談会：大西邦敏、佐藤達夫]
- 選挙後の参議院のあり方『自立・文化と緑化』9-6、6月15日[『民主社会を支えるもの』収録]
- 明暗の政局『自立・文化と緑化』9-6、6月15日[座談会：唐島基智三、福良俊之、愛川重義]
- 役員独占を強行するな[「時評」]『読売新聞』6月16日[『民主社会を支えるもの』収録]
- 前途多難の改造内閣『東京新聞』6月19日[『民主社会を支えるもの』収録]
- 第三次岸内閣論 強力な政治は望めまい[「山陽時評」]『山陽新聞』6月20日
- 難点の多い改造内閣[「日曜評論」]『夕刊岡山』6月21日

池田勇人の立場『日本海新聞』6月24日

前途多難の改造内閣『講演時報』981、7月1日

政局の展望[「政治の動き」]『市政』8-7、7月1日

臨時国会と政局の動向—安保改定を乗り切れるか—『主張と解説』9-13、7月1日

岸新内閣の一大試練『自立・文化と緑化』9-7、7月15日

切実さに乏しい政治『日本海新聞』7月15日

確信のない政治[「日曜評論」]『夕刊岡山』7月19日

社会党各派の再建案座談会 その解説と分析『社会運動通信』674、7月20日[座談会：和田耕作、唐島基智三、宮内勇、鍋山貞親。「社会党各派の構想を分析する」と改題、『社会党再建論争—解説と資料—』(社会運動通信社、1959年8月1日)収録]

再建論争でもめる社会党[「政治の動き」]『市政』8-8、8月1日

座談会 選挙制度を語る『自治時報』12-8、8月1日[座談会：細川隆元、藤原弘達、小林与三次、松村清之、皆川迪史]

「政治」と「教育」[記念講演要旨於全国社会教育委員研究協議大会]『社会教育』14-8、8月1日

第三次岸内閣に望む『新政経』113、8月1日

入閣は政局の混迷打破『進路』6-8、8月1日[対談：池田勇人]

あえぐ社会党『政治』1、8月1日[座談会：御手洗辰雄、細川隆元]

「中曽根康弘君を激励する会 中曽根康弘君を激励するの辞」中の挨拶『民族と政治』50、8月1日

試練に立つ岸新内閣『海外事情』7-8、8月5日

\*社会党の再建論争『国内情勢解説』8月10日[『民主社会を支えるもの』収録]

参議院制度研究会第1回 現行参議院制度の生いたち『民主戦線』2-8、8月10日[6月26日座談会(於日本倶楽部)：大西邦敏、佐藤達夫、近藤英明、長谷部忠]

安保条約改定に望む『自立・文化と緑化』9-8、8月15日

岸首相の帰国談『日本海新聞』8月15日

岸首相の外遊談[「日曜評論」]『夕刊岡山』8月16日

政界放談 政界を斬る!『日本週報』492、8月25日[座談会：御手洗辰雄、細川隆元]

首相帰国と当面の政局[「政治の動き」]『市政』8-9、9月1日

社会党大会の焦点『日本海新聞』9月9日

参議院制度研究会第2回 参議院をどう改革するか『民主戦線』2-9、9月10日[7月21日座談会(於日本倶楽部)：大西邦敏、佐藤達夫、近藤英明、長谷部忠]

教育正常化の望みはないのか『自立・文化と緑化』9-9、9月15日

社会党の分裂[「日曜評論」]『夕刊岡山』9月20日

西尾問題と「新党」『社会運動通信』682、9月21日[『新しい社会主義政党』<社通叢書4>(社会運動通信社、1959年10月12日)収録]

来るところに来た社会党[「政治の動き」]『市政』8-10、10月1日

参議院制度研究会第3回 参議院運用上の問題『民主戦線』2-10、10月10日[7月21日座談会(於日本倶楽部):大西邦敏、佐藤達夫、近藤英明、長谷部忠]

選挙を浄化するために[9月29日講演速記録於公明選挙連盟主催公明選挙協議会]『公明選挙時報』192、10月15日

社会党の進路『自立・文化と緑化』9-10、10月15日

分裂社会党の内幕『自立・文化と緑化』9-10、10月15日[座談会:唐島基智三、和田耕作、土屋清、愛川重義]

鳥取県と松葉ガニ[「郷土と私」]『都道府県展望』13、10月15日

松村氏の中共訪問『日本海新聞』10月17日

西尾派脱党と二大政党の転機『毎日新聞』10月18日

社会主義政党の苦悶[「日曜評論」]『夕刊岡山』10月18日

民主社会主義新党に望む『東京新聞』10月19日

新保守主義の勝利『市政』8-11、11月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

西尾新党と政党政治の転機『民族と政治』53、11月1日

公共の道義をつちかえ『光と愛敬』26-11、11月3日[「公共の道義」と改題、千田金二編『光と愛・敬』収録]

[「アンケート 北方領土は北洋漁業のために放棄すべきか」]『月刊政治』94、11月8日

よく見れば『師と友』11-11、11月10日

参議院制度研究会 第4回 小林次郎氏改革案をめぐって『民主戦線』2-11、12、11月10日、12月10日  
[9月22日座談会(於日本倶楽部):大西邦敏、近藤英明、小林次郎]

民主社会主義の新党に期待する『自立・文化と緑化』9-11、11月15日

三木武夫氏に外国事情を聞く『自立・文化と緑化』9-11、11月15日[座談会:三木武夫、土屋清、福良俊之、愛川重義、佐倉潤吾、白神勤、平岡敏男]

右派社会党は伸びられるか『日本海新聞』11月15日

選挙を浄化するには[「日曜評論」]『夕刊岡山』11月15日

育つか民主社会主義政党『東京新聞』11月30日、12月1、2、4日[対談:蟬山政道]

来るところに来た社会党[「政治の動き」]『市政』8-12、12月1日

人間味に惚れた『進路』6-12[池田勇人還暦祝賀号]、12月1日

自発的にとれ[「議長辞任と浅沼懲罰問題 国会乱入事件の責任は?」]『東京新聞』12月12日

政治の浄化に勇猛を振え『自立・文化と緑化』9-12、12月15日

松村謙三古井喜美氏に中共を聞く『自立・文化と緑化』9-12、12月15日[座談会:松村謙三、古井喜美、愛川重義、佐倉潤吾、白神勤、平岡敏男]

育つか民主社会主義政党『講演時報』1003、1004、12月16、23日[対談:蟬山政道]

来年はもっとまじな政治を[「日曜評論」]『夕刊岡山』12月20日

日本はこれでよいのか『日本海新聞』12月24日

## 1960（昭和35）年

本年の政局はどうなる[「政治の動き」]『市政』9-1、1月1日

美しいかなわが国土『主張と解説』10-1、1月1日

\*日本民主政治の動向・私たちの使命『新政経』[117]、1月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

曇りのち雨 政界天気図『夕刊岡山』1月1日[対談：細川隆元]

新春に祖国を想う『海外事情』8-1、1月5日

対決ばやり『大阪新聞』1月11日[『民主社会を支えるもの』収録]

転回点に立つ今年の政界『自立・文化と緑化』10-1、1月15日

事前協議に「同意」確認を 批准は解散に訴えて[「日米安保条約調印 岸全権に与える」]『東京新聞』1月16日[「岸全権に与える」と改題、『民主社会を支えるもの』収録]

東南アジアを重視せよ[「日曜評論」]『夕刊岡山』1月17日

新安保条約と日本『日本海新聞』1月21日

新保守主義の政治哲学 作文に終わらせるな[「二つの中産階級論」]『山陽新聞』1月28日

自民党脱皮の一指標—新保守主義の哲学について—[「時評」]『読売新聞』1月29日[『民主社会を支えるもの』収録]

安保改定後の課題[「政治の動き」]『市政』9-2、2月1日

新党の党首とその課題『政治』2-2、2月1日[インタビュー]

政局はどう動く『東京新聞』2月1～4日[座談会：山浦貫一、細川隆元、唐島基智三]

美しいかなわが国土『海外事情』8-2、2月5日

政局はどう動くか『講演時報』1010、2月8日[座談会：山浦貫一、細川隆元、唐島基智三]

重ねて安保解散論を主張する『自立・文化と緑化』10-2、2月15日

安保批准と政局の展望『自立・文化と緑化』10-2、2月15日[座談会：土屋清、佐倉潤吾]

優秀な候補者の育成を[「アンケート民主社会党に要望する」]『全労』20、2月15日

全学連と大学論議[「月曜評論」]『夕刊岡山』2月22日

安保解散はあるか『日本海新聞』2月25日

グロムイコ覚え書に憤る[「緊急特集 グロムイコ覚え書きへの意見」]『経済往来』12-3、3月1日

政府の解釈は政治的 憲法、国会法上からも可能[「国会は条約を修正できるか」]『講演時報』1013、3月1日

不徹底な選挙法改正[「政治の動き」]『市政』9-3、3月1日

転機に起つ国内政治情勢—安保批准とその後の政治課題—『主張と解説』10-5、3月1日

民社新党発足と新しい政界『選挙』13-3、3月1日[『民主社会を支えるもの』収録]



救えぬ、人事争い『産経新聞』3月13日[『民主社会を支えるもの』収録]

教育問題断想『自立・文化と緑化』10-3、3月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

社会党の内状と再建『自立・文化と緑化』10-3、3月15日[座談会：河野密、唐島基智三、土屋清、福良俊之、愛川重義、白神勤]

難航する安保審議[「月曜評論」]『夕刊岡山』3月21日

社会党はどうなる『日本海新聞』3月23日

政治論から見た福祉国家[2月26日講演(於共済組合連盟主催時務担当者会議)]『共済新報』1-1、4月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

ヤマ場きた安保審議[「政治の動き」]『市政』9-4、4月1日

難航の安保審議[「時の問題 内政」]『新政経』120、4月1日

社会党の前途『自立・文化と緑化』10-4、4月15日

望ましい日本の教育について[談]『父母会議』31、4月15日

党首の公選[「月曜評論」]『夕刊岡山』4月18日

岸首相の引退問題『日本海新聞』4月20日

"安保審議"の正常化急げ『東京新聞』4月23日[『民主社会を支えるもの』収録]

党首の公選をめぐる[「政治の動き」]『市政』9-5、5月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

社会党のゆくえ[「時の問題 内政」]『新政経』121、5月1日

公約をどう受取る『北海道新聞』5月12、13日[対談：田中寿美子]

新保守主義の政治哲学『自由評論』2-6、5月15日

民主社会党に与える『自立・文化と緑化』10-5、5月15日

民社党は修正案で闘え[「月曜評論」]『夕刊岡山』5月16日

民社党に要望する『日本海新聞』5月17日

議会政治破壊の責任とれ『東京新聞』5月21日[『民主社会を支えるもの』収録]

政局座談会・事態をどう收拾するか『国内情勢解説』67、5月31日[座談会：御手洗辰雄、細川隆元]

岸首相早期引退を 日米友好にマイナス[「議会政治破壊の責任とれ」]『講演時報』1025、6月1日

議会政治と安保審議[「政治の動き」]『市政』9-6、6月1日

首脳会談は流産・安保は強行可決[「時の問題」]『新政経』122、6月1日[座談会：愛川重義、島田巽、小汀利得]

社会党総辞職へ学者の意見 賛成[談]『中部日本新聞』6月2日

社党議員の総辞職『北海タイムズ』6月2日[『民主社会を支えるもの』収録]

議会政治の再建が急務[「識者はこう考える」]『愛媛新聞』6月3日

混迷の政局を衝く『夕刊岡山』6月5～7日[座談会：御手洗辰雄、細川隆元]

回避せよ参院の安保単独審議『東京新聞』6月8日[『民主社会を支えるもの』収録]

各政党に猛省を促がす『自立・文化と緑化』10-6、6月15日

首班争奪の内幕と革命の危機『自立・文化と緑化』10-6、6月15日[座談会：唐島基智三、愛川重義、白神勤、福良俊之、土屋清]

救えない逸脱行為 社会党も深く反省の要[「全学連の国会乱入をこうみる」]『東京新聞』6月16日

学生デモの暴動化[「月曜評論」]『夕刊岡山』6月20日

あくまで回避せよ 自民思い切った譲歩を[「参院の安保単独審議是か非か」]『講演時報』1028、6月23日

「岸垂流」では困る 大衆的政治家を望む[「次はどんな首班がよいか」]『東京新聞』6月23日

座談会 最近の政局を語る『新国策』8-18、6月25日[座談会：御手洗辰雄、矢次一夫]

国民それ自体の体質改善『先見経済』815、6月25日

次期政権の性格『日本海新聞』6月30日

“後継総裁”の本命と云はれる“池田勇人”氏の真髄は？－土性骨がたくウソのない誠実さ－[「人物月旦」]『国会』13-7、7月1日

岸首相の命運[「政治の動き」]『市政』9-7、7月1日

議会政治の危機と国民『新政経』123、7月1日

政党の体質改善を[講演於内外情勢調査会岡山支部懇談会]『夕刊岡山』7月2日

醜い跡目争い－岸内閣は総辞職をためらうな－[「私の意見」]『毎日新聞』7月3日[『民主社会を支えるもの』収録]

民主政治を支えるもの『講演』6、7月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

垂流色を払拭せよ『自立・文化と緑化』10-7、7月15日

池田内閣の採点と見透し 今後の政界地図はどう変わる『自立・文化と緑化』10-7、7月15日[座談会：御手洗辰雄、唐島基智三、佐倉潤吾、白神勤、愛川重義]

政局の收拾、正常化のために『新国策』8-20、7月15日[座談会：秋定鶴三、天池清次、石田博英、池田禎治、大久保武雄、佐藤観次郎、灘尾弘吉、長谷川才次、船田中、細川隆元、柳本美雄、矢次一夫]

新内閣の課題[「月曜評論」]『夕刊岡山』7月18日

及第すれすれの線 暫定人事の感が強い[「組閣を採点する」]『東京新聞』7月19日

池田内閣への注文『毎日新聞』7月19日[『民主社会を支えるもの』収録]

池田首相の土性骨に期待『日本海新聞』7月25日

日本の民主主義 西欧諸国に旅して『社会運動通信』721、7月30日[嶺山政道へのインタビュー]

大学教授と政治運動の限界 学生の行動をも併せて『月刊時事』5-11、8月1日[編集部によるインタビュー]

暫定人事の感深い 見当たらぬ意欲的人物[「池田内閣を採点する」]『講演時報』1033、8月1日

岸政治から池田政治へ[「政治の動き」]『市政』9-8、8月1日

座談会 日本の政治危機とその打開策－社会的混乱の背景と真因－『主張と解説』10-15、8月1日[座談会：鍋山貞親、大野信三、高山岩男]

池田政治の課題[「時の問題 内政」]『新政経』124、8月1日

「新内閣に期待し激励する」中の池田新内閣成立を祝賀・激励パーティーにおけるスピーチ『新国策』  
8-22、8月5日

新内閣に希望する政策『自立・文化と緑化』10-8、8月15日

総選挙と政党『自立・文化と緑化』10-8、8月15日[座談会：江田三郎、佐倉潤吾、白神勤、土屋清]

政界 選挙態勢に入る[「月曜評論」]『夕刊岡山』8月15日

民生の具体案で争え『日本海新聞』8月24日

総選挙態勢に入った政界[「政治の動き」]『市政』9-9、9月1日

総選挙をめざす政界[「時の問題 内政」]『新政経』125、9月1日

学生の政治活動と大学の方針—拓大全学生に対する総長講話—『海外事情』8-9、9月5日[『民主社会を支えるもの』収録]

総選挙への期待 安保問題で示した政治関心生かそう『愛媛新聞[夕刊]』9月15日

総選挙に望む『自立・文化と緑化』10-9、9月15日

総選挙と議会政治[「月曜評論」]『夕刊岡山』9月19日

政治の根元を浄化せよ『日本海新聞』9月22日

これでよいか公選法の改正『東京新聞』9月26日

中立は「砂上の楼閣」[「社会党の新外交方針を読んで」]『日経連タイムス』625、9月29日

選挙と婦人『山陽新聞』9月30日、10月1日[座談会：坂西志保、前田多門]

来るべき総選挙の意義[「政治の動き」]『市政』9-10、10月1日

選挙浄化への動き[「時の問題 内政」]『新政経』126、10月1日

[「政党及び候補者へ望む」]『選挙』13-10、10月1日

民主主義と日本の現状『日本青年学生問題研究会報』16、10月1日

社会主義と民主主義『毎日新聞』10月8、9日[対談：シュミット]

国民の手で選挙の肅正を『自立・文化と緑化』10-10、10月15日

政治テロを根絶せよ[「夕刊評論」]『夕刊岡山』10月17日

憲法と当面の治安・政治『日本海新聞』10月19、20日[座談会：高柳賢三、真野毅、八木秀次、古井喜実]

総選挙に望む『やまかい』15-9、10月20日

なぜもたつく”暴力排除決議案”『東京新聞』10月21日[『民主社会を支えるもの』収録]

総選挙に望む『東京新聞』10月25～27日[座談会：前田多門、唐島基智三]

総選挙の意義『毎日新聞』10月25日[『民主社会を支えるもの』収録]

選挙とあなたの1票『話しあい』75、10月[『話しあいの友(その三)(助言者用)』(公明選挙連盟、1961年3月25日)収録]

選挙肅正のゆくえ[「政治の動き」]『市政』9-11、11月1日

総選挙を前にして『新政経』127、11月1日[座談会：清水重夫、小汀利得、島田巽、佐倉潤吾、福良俊]

之]

学園共同体の建設—拓大六十周年の記念事業として—『海外事情』8-11、11月5日

当面する教育の基本問題『文部時報』999、11月10日[対談：荒木万寿夫]

議会政治を確立するために[「選挙にどう臨んだらよいか」]『民主政治』31、11月10日[「選挙にどう臨んだらよいか」と改題、『民主社会を支えるもの』収録]

総選挙と三党の外交政策 中立外交に現実性があるか[10月27日NHK総合テレビ・ラジオ放送「三党の外交政策討論会」の転載]『朝日ジャーナル』2-46、11月13日[座談会：小坂善太郎、勝間田清一、西村栄一、平林たい子、唐島基智三]

Background of recent mass demonstrations 『Contemporary Japan』26-4、11月

時局と政治教育『月刊公民館』43、12月1日

政治と暴力『時』3-14、12月1日[座談会：阿部真之助、大宅壮一]

わが民主政治の実態『海外事情』8-12、12月5日[『民主社会を支えるもの』収録]

動揺する東南アジア『東京新聞』12月31日[『民主社会を支えるもの』収録]

## 1961 (昭和 36) 年

公民教育の徹底を 民主社会築くために[「日本をみつめて」]『日本経済新聞』1月1日

拓殖大学の精神と伝統『海外事情』9-1、1月5日

再建政治の課題『自立・文化と緑化』11-1、1月15日[『文化と緑化』の改題前誌『日本の再建』1-2、1948年9月)から転載]

日本と東南アジア諸国の協力—教育視察団としての見聞—『主張と解説』11-3、2月1日

日本と東南アジアの協力—東南ア教育視察団に参加して—『海外事情』9-3、3月5日

東南アジア教育調査報告—その概要—『文部時報』1003、3月10日

変貌する中南米と東南アジア 矢部貞治氏の視察談を聞く『自立・文化と緑化』11-4、4月15日[座談会：佐倉潤吾、福良俊之、愛川重義、白神勤]

ラテン・アメリカを視察して—その歴史的背景および将来をみる—『新国策』9-11、4月15日

池田内閣十ヵ月を顧みて『新国策』9-13、5月5日[座談会：小汀利得、矢次一夫]

池田首相の訪米に望む『自立・文化と緑化』11-5、5月15日

中南米諸国の印象『主張と解説』11-10、11、5月15日、6月1日

キューバと中南米[「夕刊評論」]『夕刊新聞』5月15日

中南米民主化の動向—社会革命の必然性—『新政経』133、6月1日

座談会・保守党の近代化『青年手帖』2-6、6月1日[4月20日座談会(於東京会館)：中曾根康弘、長谷川峻、小倉昌男]

"すべてか無か"ではならぬ—話し合い政治に正しい姿勢を—[「私の直言」]『時の課題』5-6、6月1日

大学生生活の在り方『海外事情』9-6、6月5日

議会政治を建て直すために『東京新聞』6月10日[対談：山浦貫一]

民主主義とクーデター『東京新聞』6月14日[『民主社会を支えるもの』収録]

内閣改造に望む『自立・文化と緑化』11-6、6月15日

議会政治を建て直すために『講演時報』1075、6月16日[対談：山浦貫一]

池田首相の訪米[「夕刊評論」]『夕刊新聞』6月19日

民主主義とクーデター『講演時報』1076、6月23日

政党政治の盲点[「自由論壇」]『自由民主』128、6月25日

池田首相訪米と政局の動向『証券業報』140、6月

池田首相の姿勢について『自立・文化と緑化』11-7、7月15日

第三八国会をかえりみて－民社党の姿勢はよかった－『新政経』134、7月1日

新情勢下の池田内閣『自立・文化と緑化』11-7、7月15日[座談会：唐島基智三、佐倉潤吾、愛川重義]

後進国と議会主義『世界と議会』1-2、7月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

七月人事に指導性を発揮せよ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』7月17日

池田改造内閣に望む－”実力”は結構だが”勇み足”に警戒を－『毎日新聞』7月19日[『民主社会を支えるもの』収録]

カストロ革命と米州機構『こゑ』9、7月28日[インタビュー]

池田首相の姿勢に望む『新政経』135、8月1日

後進地域と民主主義『自立・文化と緑化』11-8、8月15日

当面の国内政治情勢[7月22日中央林業相談所第11回定例集会特別講演速記]『自立・文化と緑化』11-8、8月15日

自由世界の悩み[「夕刊評論」]『夕刊新聞』8月21日

人間形成の場としての私学『私学振興』10-4、8月31日[『民主社会を支えるもの』収録]

ロシアと日本[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月4日

小選挙区制[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月11日

選挙の健全化のために『自立・文化と緑化』11-9、9月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

軍事政権[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月18日

選挙制度の改革方向[「夕刊評論」]『夕刊新聞』9月18日

お飾り会長[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月25日

”釈明調”の強い施政方針演説『毎日新聞』9月29日<<無署名>>[「施政方針演説を批判する」と改題『民主社会を支えるもの』収録]

憲法調査会[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月2日

憲法調査会の経過と調査の概要『新国策』9-29、10月5日

北条氏にお答えする[「投書」]『毎日新聞』10月6日

外国の干渉を誘うな—外交論議のあり方[「東京論壇」]『東京新聞』10月8日[『民主社会を支えるもの』、鹿島守之助編『超党派外交』(鹿島守之助、1965年)収録]

ぜったい病[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月9日

拓大の使命感で[「私の履歴書」]『私学新報』36、10月11日

区制改正か定数は正か『自立・文化と緑化』11-10、10月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

[「アンケート 国会と議員に何を望むか」]『世界と議会』1-5、10月15日

池田勇人のこと[「友を語る」]『世界と議会』1-5、10月15日

施政方針演説を批判する『講演時報』1091、10月16日

調和との均衡[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月16日

南千島を放棄するな[「夕刊評論」]『夕刊新聞』10月21日

豊作の陰で[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月23日

憲法論議をめぐる問題点[10月19日講演於日経連総会]『日経連タイムス』679、10月26日

選挙費の監査[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月30日

話し合いの条件『時』4-12、11月1日

調和ある世の中に『PHP』162、11月1日

実力者内閣[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月6日

書記長争い[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月10日

低開発援助[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月13日

憲法調査の現状『自立・文化と緑化』11-11、11月15日

現行憲法の問題点—十余年来の運用から見た『主張と解説』11-22、11月15日

紛糾する社会党[「夕刊評論」]『夕刊新聞』11月18日

汪精衛氏[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月20日

健康法[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月27日

民族の気節[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』12月4日

少し鈍き刀[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』12月11日

強健なる野党『自立・文化と緑化』11-12、12月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

民社党にのぞむ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』12月16日

日本せり売り[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』12月18日

得失また知らず[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』12月25日

## 1962（昭和37）年

わが国民民主政治のヒズミ『市政』11-1、1月1日

私の好きな言葉『主張と解説』12-1、1月1日

日本国憲法の成り立ち[「憲法問題特集」]『新政経』139、1月1日

政局のカギは経済危機[「夕刊評論」]『夕刊新聞』1月1日[『民主社会を支えるもの』収録]

後進国への援助強力ーわが拓大生に訴うー『海外事情』10-1、1月5日

"還暦、すなわち人生の再出発"[「寅年を迎えてーその見通しと抱負を語る」]『新国策』10-1、1月5日

今年の日本に望む『自立・文化と緑化』12-1、1月15日

崩れる社会党の『積極中立』[「夕刊評論」]『夕刊新聞』1月20日[『民主社会を支えるもの』収録]

私の好きな言葉『海外事情』10-2、2月5日

国会正常化は話し合いから 副議長は第二党に[「月曜評論」]『西日本新聞』2月5日[『民主社会を支えるもの』収録]

憲法調査会と憲法論議ー博士の見解を読んでー『読売新聞』2月5日

政党法について『自治研究』38-2、2月10日[『民主社会を支えるもの』収録]

難航する国会正常化『自立・文化と緑化』12-2、2月15日

政党法は果して不安か[「夕刊評論」]『夕刊新聞』2月17日

政党は勝手すぎる 公選法改正をめぐって『西日本新聞』2月28日[『民主社会を支えるもの』収録]

政党は勝手すぎるー公選法改正をめぐってー『北海道新聞』2月28日[『民主社会を支えるもの』収録]

社会党に望むー自主性のない外交方針ー『新政経』141、3月1日

すっきりしない最近の政治『東京新聞』3月1日[座談会：林健太郎、郡司浩平]

政府自民党は猛省せよ 公選法の改正をめぐって『北海道新聞』3月1日

公選法改正をめぐる動き『自立・文化と緑化』12-3、3月15日

中ソ関係の現状と将来『自立・文化と緑化』12-3、3月15日[座談会：法眼晋作、早川徹、愛川重義、佐倉潤吾、白神勤]

政局不安のきざし[「夕刊評論」]『夕刊新聞』3月17日

風格ある教師[「リレー随筆」]『私学新報』48、3月21日

よき細工は少しにぶき刀をもって『明かるい旅』22、3月31日[座談会：金井清、片岡義信]

不安な最近の政局『講演時報』1113、4月1日[座談会：林健太郎、郷司浩平、岩崎五]

民主社会の根柢を培え『自治研修』32、4月1日

憲法問題をめぐりて[1962年2月6日講演於日本工業倶楽部]『青淵』157、4月1日

現在の政治・政党をどうみるか『新国策』10-10、4月5日[座談会：矢次一夫、永野護、大坪保雄、片倉衷、西村栄一、鷹崎正見、土岐章、松本馨]

転機に立つ池田政治『自立・文化と緑化』12-4、4月15日

池田低姿勢の転機[「夕刊評論」]『夕刊新聞』4月21日

憲法審議の現状について『蔵前工業会誌』560、4月

『憲法』にこう思う『朝日新聞』5月3～5日[座談会：蛭山政道、佐藤達夫、伊藤正巳]

憲法記念日におもう『中部日本新聞[夕刊]』5月3日[『民主社会を支えるもの』収録]  
参議院議員選挙の意義『光と愛敬』29-5、5月3日[『民主社会を支えるもの』収録]  
憲法問題をめぐって『海外事情』10-5、5月5日  
[「参院選・政策の争点 わたしの見解」]『東京新聞』5月5日  
憲法調査会来夏に報告[談]『読売新聞[夕刊]』5月14日  
憲法と政党『自立・文化と緑化』12-5、5月15日  
非公選議員つくれ[「『参議院』はこのままでよいか?」]『東京新聞』5月16日  
国会正常化の結末[「夕刊評論」]『夕刊新聞』5月19日  
池田政治と参院選挙『主張と解説』12-11、12、6月1、15日[対談：鍋山貞親]  
第四十国会を顧みて『新政経』144、6月1日  
山陰文化の開発を望む[「随筆・日本海」]『NKT日本海』9、6月1日  
[「特集・アンケート／参議院選挙に思う 憲法・外交・経済政策」]『民主社会主義研究』27、6月1日  
参議院選挙の注目点『自立・文化と緑化』12-6、6月15日  
政治経済縦横談議『自立・文化と緑化』12-6、6月15日[座談会：土屋清、福良俊之、白神勤]  
参院選挙の見どころ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』6月16日  
二大政党より小会派を[「参院選への提言」]『北国新聞[夕刊]』6月20日  
二大政党より小会派を[「参院選への提言」]『河北新報』6月22日  
二大政党より小会派を[「参院選への提言」]『愛媛新聞』6月23日  
憲法論議をめぐって『あいち』159、7月1日  
憲法論議をめぐって『暁鐘』33-7、7月1日  
憲法論議をめぐって『自警』44-7、7月1日  
「この一票」こう投じよう『東京新聞』7月1日[『民主社会を支えるもの』収録]  
憲法論議をめぐって『なにわ』7月1日  
今後の政治に注文する『毎日新聞』7月4日[対談：中山伊知郎。『中山伊知郎全集 第18巻』(講談社、1973年)収録]  
総裁選挙に要望する『東京新聞』7月14日  
憲法第九条について『文化と緑化』12-7、7月15日  
『ゆえなき流説』の問題[「夕刊評論」]『夕刊新聞』7月22日  
\*憲法論議をめぐって『警察雑誌』7月 [『民主社会を支えるもの』収録]  
与野党の配分が妥当[「醜い国会の常任委員長争い」]『東京新聞』8月11日  
鮎の味『大因伯』41-8、8月15日  
決断のある政治[「夕刊評論」]『夕刊新聞』8月18日  
創立十周年を迎えて－民主政治培養のために前進しよう－『新政経』147、9月1日



池田改造内閣の課題『国民サロン』5-9、9月15日  
再出発の池田首相に望む『自立・文化と緑化』12-9、9月15日  
憲法感覚[「夕刊評論」]『夕刊新聞』9月16日  
政党の近代化とは『国民協会』10月1日  
旅と水と酒[「随筆」]『旅と宿』9-10、10月1日  
"憲法と自衛隊"を聞く[インタビュー]『朝雲』466、10月4日  
国家と青年と民主主義『海外事情』10-10、10月5日  
"一喜一憂"するな[「わたしも一言」]『民社新聞』145、10月12日  
池田内閣の前途—前途多難な党内情勢—『主張と解説』12-20、10月15日  
国民投票制の効用『文化と緑化』12-10、10月15日[『民主社会を支えるもの』収録]  
中共事情を語る 古井喜実氏を囲んで『文化と緑化』12-10、10月15日[座談会：古井喜実、愛川重義、佐倉潤吾、白神勤]  
大学の管理制度[「夕刊評論」]『夕刊新聞』10月21日  
[「憲法と国民生活についてのアンケート」]『時』5-11、11月1日  
民主国家を支えるもの『月刊警察文化』14-13、11月5日  
高柳案をめぐって[「選挙民権論(高柳案)批判」]『世界と議会』18、11月15日  
大学の管理について『文化と緑化』12-11、11月15日[『民主社会を支えるもの』収録]  
派閥の解消[「夕刊評論」]『夕刊新聞』11月17日  
憲法第九条と自衛隊『国防』11-14、12月1日[『民主社会を支えるもの』収録]  
矢部貞治博士に聞く 憲法論議の焦点『こゑ』13、12月5日[インタビュー]  
憲法テレビ討論会[12月8日フジテレビ特別番組「憲法問題討議会」要旨]『新護憲』24、12月15日[座談会：片山哲、勝間田清一、潮田江次、西清子、猪木正道、中河幹子、早川崇、大石義雄、和田清好]  
政党の近代化『文化と緑化』12-12、12月15日[『民主社会を支えるもの』収録]  
池田総理の所信表明[「夕刊評論」]『夕刊新聞』12月16日  
空白国会を收拾せよ『朝日新聞』12月17日  
裏切られた混乱国会『読売新聞』12月19日[対談：御手洗辰雄]

## 1963（昭和38）年

地方政治のめざすもの『市政』12-1、1月1日[『民主社会を支えるもの』収録]  
水と酒『主張と解説』13-1、1月1日  
日本民主政治の問題—主権者としての国民の反省を求める—『新政経』150、1月1日  
低開発地域への協力『海外事情』11-1、1月5日[『民主社会を支えるもの』収録]  
役員独占はよくない 国会正常化の問題『北海道新聞』1月14日

私学経営私見『私学振興』12-1、1月15日

年内解散はあるだろうか『文化と緑化』13-1、1月15日

今年の日本を占う『文化と緑化』13-1、1月15日[座談会：土屋清、佐倉潤吾、愛川重義、井上縫三郎、福良俊之]

施政演説に注文する[「夕刊評論」]『夕刊新聞』1月20日

座談会 一九六三年内外の展望－キューバ以後の東西関係－『主張と解説』13-3、2月1日[座談会：高山岩男、大野信三、草野文男、鍋山貞親]

知事選挙あれこれ『文化と緑化』13-2、2月15日[『民主社会を支えるもの』収録]

地方政治の政党化[「夕刊評論」]『夕刊新聞』2月24日

アジアと共産主義－共産主義の脅威は「幻想か」－『文化と緑化』13-3、3月15日

地方選挙と地方自治『文化と緑化』13-3、3月15日[座談会：古井喜実、小林与三次、愛川重義]

自治の本旨を忘れるな[「東京論壇」]『東京新聞』3月17日

自治の本旨を忘れるな[「私の意見」]『講演時報』1158、3月23日

地方政治にビジョンを[「夕刊評論」]『夕刊新聞』3月24日

わが国民民主政治のひずみ[3月8日講演於公明政治連盟主催「公明選挙のつどい」]『公明』7、4月1日

政党と政治献金『文化と緑化』13-4、4月15日

地方選挙をこう見る『東京新聞』4月19、20日[対談：唐島基智三]

地方選挙あれこれ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』4月28日

勇み足論議を糾す－憲法調査会の成果と姿勢－『現代の眼』4-5、5月1日

地方四選挙を顧みて『講演時報』1163、5月1日[対談：唐島基智三]

損得勘定を越えて[「交遊抄」]『日本経済新聞』5月1日

政党論二題－政党の法制化・近代化－『海外事情』11-5、5月5日[『日本に遺す』収録]

地方選挙覚え書『文化と緑化』13-5、5月15日[『日本に遺す』収録]

岡崎新岡山市長に望む[「夕刊評論」]『夕刊新聞』5月19日

統一地方選挙と政局－日本政治の課題と7月人事『主張と解説』13-11、6月1日

地方選挙を顧みて－地方自治の本旨は何か－『新政経』155、6月1日

社会主義憲法について『文化と緑化』13-6、6月15日[『日本に遺す』収録]

夏宵放談 物価と政治『文化と緑化』13-6、6月15日[座談会：東畑精一、愛川重義、福良俊之]

池田自民党総裁に望む 党近代化と7月人事について『東京新聞』6月19日

七月人事と派閥の解消[「夕刊評論」]『夕刊新聞』6月23日

完全公選に徹底せよ きれいな選挙実現のために『時事通信 時事解説版』5299、6月24日[座談会：御手洗辰雄、村田為五郎]

党近代化と7月人事について[「池田自民党総裁に望む」]『講演時報』1171、7月1日

宏池会など解散せよ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』7月21日  
善意による強要『PHP』183、8月1日  
派閥解消への途『文化と緑化』13-8、8月15日[『日本に遺す』収録]  
解散は早まるか[「夕刊評論」]『夕刊新聞』8月25日  
民主社会を支えるもの『文部時報』1033、9月10日[『日本に遺す』収録]  
年内解散は必至か『文化と緑化』13-9、9月15日  
臨時国会と年内解散—社会党が時の氏神か—[「東京論壇」]『東京新聞』9月15日  
中選挙区委護方式[「夕刊評論」]『夕刊新聞』9月22日  
臨時国会と年内解散 社会党が時の氏神か[随感]『講演時報』1183、10月1日  
飛躍の段階に立つ拓大『[拓殖大学]学友会報』153、10月15日  
臨時国会と総選挙展望—年内解散と各党の選挙体制—『主張と解説』13-20、10月15日  
総選挙の意義は何か『文化と緑化』13-10、10月15日  
大衆政党へ脱皮が必要 三木答申を読んで『東京新聞』10月18日  
総選挙の争点[「夕刊評論」]『夕刊新聞』10月21日  
焼きむすび『あじくらげ』90、11月1日  
人間が歩ける道を[「ずいひつ」]『潮』41、11月1日  
自民党組織調査会の答申について『文化と緑化』13-11、11月15日[『日本に遺す』収録]  
総選挙の結果と今後の政局『東京新聞』11月23日[座談会：山浦貫一、中村菊男]  
新政界に望む『日本経済新聞』11月23日  
自民の党内問題が焦点に[「総選挙 各界の声をきく」]『読売新聞』11月23日  
総選挙を顧みて[「夕刊評論」]『夕刊新聞』11月29日  
総選挙と今後の政局『講演時報』1192、12月8日[座談会：山浦貫一、中村菊男]  
新政界に望む『文化と緑化』13-12、12月15日[『日本に遺す』収録]  
世界と日本の問題あれこれ『文化と緑化』13-12、12月15日[座談会：唐島基智三、土屋清、福良俊之、  
白神勤、愛川重義]  
池田政権の前途[「夕刊評論」]『夕刊新聞』12月22日

## 1964（昭和39）年

公民の品性『旭の友』18-1、1月1日  
公民の品性『自警』46-1、1月1日  
政党戦線異常あり 近代的組織政党への胎動を探る『社会運動通信』860、1月1日[対談：宮内勇]  
農村育ち『主張と解説』14-1、1月1日  
公民の品性『なにわ』1月1日

日本の進路『西日本新聞』1月1日[座談会：都留重人、堀江薫雄]  
議会政治のひずみ[「論壇」]『フォト』11-1、1月1日  
内外に難問続く64年『夕刊新聞』1月1日[座談会：吉野俊彦、藤瀬五郎]  
最近の憲法問題『海外事情』12-1、1月5日[『日本に遺す』収録]  
一九六四年内外の展望－米ソの後退と転換に直面する日本－『主張と解説』14-2、1月15日[座談会：鍋山貞親、大野信三、高山岩男、和田敏雄、風間丈吉]  
憲法調査会の現況『文化と緑化』14-1、1月15日  
新年の政治経済国際動向『文化と緑化』14-1、1月15日[座談会：唐島基智三、平岡敏男、愛川重義、土屋清、白神勤、福良俊之、佐倉潤吾]  
憲法の報告書[「夕刊評論」]『夕刊新聞』1月19日  
これからの選挙制度－新しい時代の選挙と政治家－『公明』17、2月1日[インタビュー]  
憲法調査会の成果『新政経』162、2月1日  
国家目的の喪失『文化と緑化』14-2、2月15日[『日本に遺す』収録]  
何もしない政治[「夕刊評論」]『夕刊新聞』2月16日  
[説明員としての発言]『[第46回国会参議院]予算委員会議録』7、3月5日  
[説明員としての発言]『[第46回国会参議院]予算委員会議録』10、3月9日  
[記事「故河合栄治郎教授を偲んで」中の故河合栄治郎教授二十周年記念追悼絵における回想談]『社会思想研究』16-3、3月15日  
ILO八十七号を批准せよ『文化と緑化』14-3、3月15日  
憲法第九条[「論壇」]『フォト』11-6、3月15日  
ILOを解決せよ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』3月15日  
拓大生よ根性(土性骨)を養え[巻頭言]『扶桑』5、3月20日  
政党政治への提言『潮』46、4月1日[対談：長洲一二]  
河合栄治郎先生を想う『同盟』70、4月15日  
世論の限界『文化と緑化』14-4、4月15日[『日本に遺す』収録]  
私の著書[「特集 私と著書」]『砂郷文化』28、4月  
憲法で私は転向した－第九条(戦争放棄)を作ったのはマ元帥でない－『文芸春秋』42-5、5月1日[『日本に遺す』収録]  
日本政治の歪について[中央政策研究所定期公演「日本はいかに生きるべきか」速記]『政策研究』12、5月15日  
憲法調査会の最終報告『文化と緑化』14-5、5月15日  
創価学会の波紋[「夕刊評論」]『夕刊新聞』5月17日  
[参考人意見]『[第46回国会衆議院]通信委員会電波監理及び放送に関する小委員会議録』4、5月29日  
四六通常国会の問題点『主張と解説』14-11、6月1日

良識ある公民[「論壇」]『フォト』11-11、6月1日

創価学会の衆議院進出『文化と緑化』14-6、6月15日[『日本に遺す』収録]

総裁候補の資格を探る『文化と緑化』14-6、6月15日[6月25日座談会(於まへ川):唐島基智三、福良俊之、土屋清、高橋武彦、愛川重義]

事なかれの典型[「夕刊評論」]『夕刊新聞』6月21日

真の大衆政党になりうるか—衆議院出馬をめぐって[「特集・衆院へ出馬する公政連」]『潮』49、7月1日[座談会:原島宏治、松岡洋子、秋谷城永、竹入義勝]

知事選挙の意義『上毛新聞』7月6日

池田氏に望むビジョンと決断『新政経研究』192、7月11日

池田総裁の三選『文化と緑化』14-7、7月15日

保守党の使命は何か『文化と緑化』14-7、7月15日[座談会:唐島基智三、愛川重義、福良俊之、高橋武彦]

池田三選総裁に望む[「夕刊評論」]『夕刊新聞』7月19日

池田新体制の前途『経済復興』655、7月27日

憲法調査会の成果[「論壇」]『フォト』11-15、8月1日

自民党の近代化『文化と緑化』14-8、8月15日[『日本に遺す』収録]

夏宵放談 水・池田政治『文化と緑化』14-8、8月15日[7月21日座談会(於まへ川):古井喜実、愛川重義、門叶宗雄、高橋武彦]

憲法調査会の報告について『法律時報』36-9、8月15日

高級公務員と選挙資金[「夕刊評論」]『夕刊新聞』8月16日

日本人の政治能力『文化と緑化』14-9、9月15日[『日本に遺す』収録]

自民党前幹事長前尾繁三郎氏を囲んで『文化と緑化』14-9、9月15日[座談会:前尾繁三郎、唐島基智三、土屋清、福良俊之、白神勤、門叶宗雄、高橋武彦]

選挙制度の問題点『経済復興』660、9月17日

答申を尊重せよ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』9月20日

選挙の姿を正そう[「論壇」]『フォト』11-19、10月1日

池田総理病む『文化と緑化』14-10、10月15日

首相の病気と政局[「夕刊評論」]『夕刊新聞』10月18日

池田退陣と今後の政局『京都新聞』11月6日

池田首相の辞任と政局『経済復興』665、11月7日

新時代に立つ日本の姿勢 政権交代に寄せて『日本経済新聞』11月9日[座談会:東畑清一、木川田一隆、朝海浩一郎、松下正寿]

佐藤新首相の課題『文化と緑化』14-11、11月15日

佐藤新政権の課題『文化と緑化』14-11、11月15日[座談会:唐島基智三、土屋清、高橋武彦]

池田路線の継承とは[「夕刊評論」]『夕刊新聞』11月16日  
佐藤内閣の誕生とその前途『主張と解説』14-23、12月1日  
英国の総選挙を視察して『選挙』17-12、12月1日[座談会：青木正、近藤操、島上善五郎、田上穰治、長谷川峻、長野士郎、染野愛、笹川慶永]  
日本国憲法の問題点[9月22日講演]『汎交通』64-8、12月1日  
現代青年と希望[「論壇」]『フォト』11-23、12月1日  
自主外交の前提『文化と緑化』14-12、12月15日[『日本に遺す』収録]  
ジョンソン会談と日本の国策『文化と緑化』14-12、12月15日[座談会：唐島基智三、愛川重義、土屋清、高橋武彦]  
佐藤路線の打ち出し『経済復興』670、12月17日  
もたつく佐藤内閣[「夕刊評論」]『夕刊新聞』12月20日

## 1965（昭和40）年

浪人生活に還る『主張と解説』15-1、1月1日  
多極化する世界[「時言」]『新政経』172、1月1日[『日本に遺す』収録]  
日本の政治にのぞむ一静かなる革命の時代－『新政経』172、1月1日[『日本に遺す』収録]  
近衛文麿と新体制[「近代日本を創った一〇〇人」]『中央公論』80-1、1月1日[『近代日本を創った百人』（毎日新聞社、1965年）収録]  
きれいな選挙の日本に『PHP』200、1月1日[『日本に遺す』収録]  
昭和四十年代の展望[インタビュー]『民社新聞』249、1月1日  
佐藤首相に望む[「時評」]『読売新聞』1月3日  
政治の能力[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5762、1月8日  
一九六五年内外の展望『主張と解説』15-2、1月15日[座談会：大野信三、高山岩男、草野文男、風間丈吉、鍋山貞親]  
東南アジアを想う『文化と緑化』15-1、1月15日[『日本に遺す』収録]  
東南アジアと日本[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5768、1月16日  
党首のお茶の会[「夕刊評論」]『夕刊新聞』1月17日  
「新興国」会議の性格[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5773、1月22日  
自民党の基本憲章[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5779、1月29日[『日本に遺す』収録]  
静かなる革命[「明日を考える」]『潮』56、2月1日[『日本に遺す』収録]  
新しい政治の課題－現実政治のヒズミを解消して健康で清潔な政治を『公明』29、2月1日[『日本に遺す』収録]  
国の成立[「時言」]『新政経』173、2月1日[『日本に遺す』収録]  
自主外交の基盤[「論壇」]『フォト』12-3、2月1日

国連での中国代表権問題[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5786、2月6日  
張り子のトラ[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5792、2月13日  
中国問題管見『文化と緑化』15-2、2月15日  
核と安全保障[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5797、2月19日[『日本に遺す』収録]  
三矢研究の問題点[「夕刊評論」]『夕刊新聞』2月21日  
国防と政治家[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5803、2月26日[『日本に遺す』収録]  
アジア外交の試練『経済復興』675、2月27日[『日本に遺す』収録]  
対立と統合[「時言」]『新政経』174、3月1日[『日本に遺す』収録]  
緑風会の消滅[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5809、3月5日[『日本に遺す』収録]  
知事や市長の多選[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5815、3月12日[『日本に遺す』収録]  
為政者と国防『文化と緑化』15-3、3月15日[『日本に遺す』収録]  
勝間田清一氏を囲んで『文化と緑化』15-3、3月15日[座談会：勝間田清一、唐島基智三、愛川重義、土屋清、福良俊之、高橋武彦]  
非常事態と憲法[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5821、3月19日  
社会党のカベ[「夕刊評論」]『夕刊新聞』3月21日  
腐敗選挙の病根にメスを[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5828、3月27日  
普選四十年[「時言」]『新政経』175、4月1日[『日本に遺す』収録]  
普選選挙四十年[「論壇」]『フォト』12-7、4月1日  
社会党の派閥[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5833、4月2日[『日本に遺す』収録]  
地方議会の乱脈ぶり[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5839、4月9日  
政治と行政『文化と緑化』15-4、4月15日  
衆議院の解散問題[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5845、4月16日  
これからの政治日程『経済復興』680、4月17日  
公務員の選挙運動[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5852、4月24日  
佐藤内閣と参議院選展望『主張と解説』15-9、5月1日  
良識の府[「時言」]『新政経』176、5月1日  
地方議会の解散[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5858、5月4日  
戦う社会党？[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5866、5月14日  
現代の社会主義政党『文化と緑化』15-5、5月15日[『日本に遺す』収録]  
福田赳夫氏を囲む座談会『文化と緑化』15-5、5月15日[座談会：福田赳夫、唐島基智三、愛川重義、福良俊之、高橋武彦]  
「仕事のできる多数」[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5872、5月21日[『日本に遺す』収録]  
総理大臣の孤独[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5878、5月28日

現代の社会主義[「時言」]『新政経』177、6月1日[『日本に遺す』収録]

参議院の政党化[「論壇」]『フォト』12-11、6月1日

グルーの死[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5884、6月4日

借り着をぬいだ佐藤内閣 評価は派閥均衡より政策実行で『北海道新聞』6月4日

新ライバル登場[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5890、6月11日

佐藤新内閣に期待する『文化と緑化』15-6、6月15日

佐藤改造内閣の性格と今後『文化と緑化』15-6、6月15日[座談会：唐島基智三、愛川重義、福良俊之、高橋武彦]

佐藤体制への期待『経済復興』686、6月17日

投票の消極主義[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5897、6月19日[『日本に遺す』収録]

朝な夕なに雑草を抜く[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5902、6月25日

静かな革命[「時言」]『新政経』178、7月1日

民主政治はどこへゆく『明るい政治[民主社会協会会報]』1、7月1日[座談会：蛭山政道、平林たい子、都甲正一、猪狩悌介]

政界実力者の死『文化と緑化』15-7、7月15日

政治の姿勢を正す[「時言」]『新政経』179、8月1日

失われた日米首脳会談[「論壇」]『フォト』12-15、8月1日

ああ北方領土[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5938、8月6日

総評の政治闘争[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5944、8月13日

北方領土を忘れるな『文化と緑化』15-8、8月15日[『日本に遺す』収録]

平和主義と侵略主義者[目次に記載を欠く]『文化と緑化』15-8、8月15日<<無署名>>[『日本に遺す』収録]

参院選後の現状把握『経済復興』692、8月17日

池田政治の功罪[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5950、8月20日

自民党近代化の好機[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5950、8月27日

北方領土を憶う[「時言」]『新政経』180、9月1日

イギリス保守党の脱皮[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5962、9月3日[『日本に遺す』収録]

調整難の選挙制度[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5968、9月10日

公務員と政治『自治研修』61、9月10日[『日本に遺す』収録]

選挙制度審議会の現況『文化と緑化』15-9、9月15日[『日本に遺す』収録]

政界の派閥とは何か[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5974、9月17日

社会党議員の総辞職[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5980、9月25日[『日本に遺す』収録]

派閥解消の好機[「時言」]『新政経』181、10月1日



日韓条約の常識[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5985、10月1日[『日本に遺す』収録]  
政党の近代化[「論壇」]『フォト』12-19、10月1日  
"自民党の危機"をえぐる一転換期に立つ保守政権『時の課題』9-11、10月5日[座談会：森清、千葉愛雄]  
党近代化の好機『経済復興』697、10月7日  
比例代表加味の割合い[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5991、10月8日[『日本に遺す』収録]  
左翼デモの目標[「春秋」]『時事通信 時事解説版』5997、10月15日  
日韓とベトナム『文化と緑化』15-10、10月15日  
平和維持軍と憲法第九条[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6003、10月22日  
大きな争点のない選挙[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6009、10月29日[『日本に遺す』収録]  
日韓国交の正常化[「時言」]『新政経』182、11月1日  
減税と公債[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6020、11月12日  
未熟極まる政党政治『文化と緑化』15-11、11月15日  
根本は政党のあり方に―「議会政治の本質」を考える―[「解説」]『時事通信 時事解説版』6025、11月18日  
根本は政党の未熟にある[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6026、11月19日  
中国の代表権問題[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6031、11月26日  
静かな選挙[「論壇」]『フォト』12-23、12月1日  
ベトナム交渉の障害[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6037、12月3日  
安保の改定？[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6043、12月10日[『日本に遺す』収録]  
未熟な日本の政治[談話筆記]『週刊時事』7-50、12月11日[『日本に遺す』収録]  
政局の展望『文化と緑化』15-12、12月15日  
国会を叱る『文化と緑化』15-12、12月15日[座談会：唐島基智三、土屋清、福良俊之、白神勤、高橋武彦、浅見耕士]  
北爆と全面戦争[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6049、12月17日  
国会の今昔[「春秋」]『時事通信 時事解説版』6055、12月24日

## 1966（昭和41）年

絶対病患者[「時言」]『新政経』183、1月1日[『日本に遺す』収録]  
近衛文麿と木戸幸一[「特集 明治一〇〇年のライバル」]『文芸春秋』44-1、1月1日  
1966年を展望する 政治『民社新聞』295、1月1日[インタビューへの回答]  
知床の旅[「随想」]『福祉国家』46、1月15日  
社会党内閣のビジョン『文化と緑化』16-1、1月15日[『日本に遺す』収録]

政界の去年今年『経済復興』706、1月17日

社会党内閣の政治[「時言」]『新政経』184、2月1日

日本政治の反省[1965年12月7日講演(於龍門社定例講演会)]『青淵』203、2月1日

政党の政治資金『文化と緑化』16-2、2月15日[『日本に遺す』収録]

日本政治の反省[1965年12月7日講演要旨(於竜門社)]『弘道』777、3月1日

政治資金のあり方[「時言」]『新政経』185、3月1日

選挙制度のゆくえ『文化と緑化』16-3、3月15日

会社の政治献金『経済復興』712、3月17日[『日本に遺す』収録]

1966年の課題と展望 政治『日経連タイムス』886、3月17日

安保条約の問題[「時言」]『新政経』186、4月1日[『日本に遺す』収録]

日本の進むべき道『大陸問題』15-4、4月1日[対談：土居明夫]

中共の国連加盟問題『文化と緑化』16-4、4月15日[『日本に遺す』収録]

中共と国連[「時言」]『新政経』187、5月1日

ベトナムと全面戦争『経済復興』717、5月7日[『日本に遺す』収録]

議会政治のあり方と日本の政情 国家的利益を忘れた与野党対立『先見経済』1123、5月10日

選挙区制の改正案『文化と緑化』16-5、5月15日[『日本に遺す』収録]

国会不信 改造 解散 外交『文化と緑化』16-5、5月15日[座談会：白神勤、高橋武彦]

防衛論議『新政経』188、6月1日[『日本に遺す』収録]

選挙は他人ごとではない『PHP』217、6月1日[『日本に遺す』収録]

百家争鳴とコンセンサス『文化と緑化』16-6、6月15日[『日本に遺す』収録]

米国の中共政策[「時言」]『新政経』189、7月1日

板門店『文化と緑化』16-7、7月15日

韓国瞥見『経済復興』725、7月27日[『日本に遺す』収録]

北爆エスカレーション[「時言」]『新政経』190、8月1日

自民党への不潔感『文化と緑化』16-8、8月15日[『日本に遺す』収録]

政党への不潔感[「時言」]『新政経』191、9月1日

ふるさと自慢『ポスト』3-9、9月1日

民主的政治能力[「自由論壇」]『自由民主』276、9月5日

悪徳代議士事件に憶う『文化と緑化』16-9、9月15日[『日本に遺す』収録]

中共の文化大革命[「時言」]『新政経』192、10月1日

国会解散と自民党『経済復興』732、10月7日[『日本に遺す』収録]

衆議院解散論『文化と緑化』16-10、10月15日

安保条約を堅持せよ『言論人』9、11月1日  
佐藤内閣の課題と解散問題『主張と解説』16-21、11月1日  
国会解散談議[「時言」]『新政経』193、11月1日  
不詳・腐敗事件の根源『文化と緑化』16-11、11月15日  
政治不信の背景『経済復興』737、11月27日[『日本に遺す』収録]  
公民意識の向上を『文化と緑化』16-12、12月15日

## 1967 (昭和 42) 年

これからの日本政治の方向語る『熊本日日新聞』1月1日[座談会：長谷部忠、坂西志保]  
解散で信を問え[「佐藤改造内閣に注文する」]『言論人』11、1月1日  
身辺雑記—ご無沙汰のお詫びに—『主張と解説』17-1、1月1日  
民族への信念と愛情を『大陸問題』16-1、1月1日[『日本に遺す』収録]  
雑草抜き水与えよ 座談会を司会して『日本経済新聞』1月1日  
ことしこそ政治の建て直し『日本経済新聞』1月1日[座談会：小汀利得、永野重雄、石田博英、勝間田清一]  
\*腐敗政治の根源『評論』1月5日[『日本に遺す』収録]  
座談会・一九六七年の内外展望『主張と解説』16-2、1月15日[座談会：鍋山貞親、高山岩男、大野信三]  
時局雑感『文化と緑化』17-1、1月15日  
私のいいぶん『週刊サンケイ』16-3、1月16日  
今後の政局『文化と緑化』17-2、2月15日  
政界の去年今年『経済復興』744、2月17日  
政党と政治—コンセンサスの観点から—『国際時評』23、3月1日[『日本に遺す』収録]  
総選挙後の政局展望『主張と解説』17-5、3月1日  
政党政治に"国民の不信"『フォト』14-5、3月1日[対談：長谷川才次]  
核拡散防止条約について『文化と緑化』17-3、3月15日[『日本に遺す』収録]  
総選挙と今後の政局『海外事情』15-4、4月5日[『日本に遺す』収録]  
わが国の核政策について『経済復興』749、4月7日[『日本に遺す』収録]  
ことしの政治情勢—まずもって平穩に推移しよう[巻頭言]『東商』238、4月10日  
恵庭判決に想う『文化と緑化』17-4、4月15日[『日本に遺す』収録]  
安保反対闘争強まろう『時事通信 時事解説版』6442、4月20日  
美濃部都政の方向『時事通信 時事解説版』6448、4月27日[座談会：鍋山貞親、高山岩男]

## 5. 評論集初出

\*評論集の収録評論と初出とを掲げた。評論集収録時に改題されているものについては原題を示した。収録時に加筆・修正されているものもある。

### 『民主政機構の基礎原理』弘文堂書房、1947年4月25日

代表の原理	代表の社会的基礎(『算教授還暦祝賀論文集』有斐閣、1934年4月17日)
多数決の原理	多数決の社会的機能『法学協会雑誌』52-7、8、1934年7月1日、8月1日

### 『民主主義と警察』立花書房、1950年3月1日

新しい警察官の在り方	『あをぞら』4、1948年12月25日
民主国家に於ける警察の地位	『警察学論集』1、1948年1月15日
民主主義と行政機構	『あさひのとも』34、35、1949年5月1日、6月1日
共産主義は民主主義か	『経営者』3-4、1949年4月1日
国家再建と共産主義	『人世』15-9、1949年10月1日
暴力と革命について	『あさひのとも』39、1949年11月1日
日本民主主義の課題	1949年5月30日講演

### 『日本政治の反省』鹿島研究所、1959年5月25日

<b>I 民主社会の基本原理</b>	
民主主義と公共の原理	『拓殖大学論集』9、1955年11月1日
新社会原理としての協同主義	『海外事情』6-1、1958年1月5日
民主政治の倫理性	『海外事情』4-5、1956年5月5日
わが国の民主政治について	『海外事情』7-1、1959年1月5日
西欧民主主義と人民民主主義	1954年10月31日講演於アジア政経学会
社会主義と民主主義－社会党の理論闘争について－	社会党の理論闘争について『国内情勢解説』33、1959年1月13日
新保守主義の哲学	『自立・文化と緑化』7-11、12、1957年11月15日、12月15日
<b>II 政党論</b>	
政党観の変遷	『選挙』10-4、1957年4月1日
民主政治の一大盲点－政党の内部状態－	『自立・文化と緑化』7-4、1957年4月15日
日本の二大政党	『政策研究』1958年7月1日
第三政党論	『産経新聞』1959年1月5日
保守政党論	『新論』1-6、1955年12月1日
議会政治に背を向ける社会党	『市政』6-2、1957年2月15日
政治指導力を強化せよ	『自立・文化と緑化』8-9、1958年9月15日
岸総裁の再選	『山陽新聞』1959年1月25日
内乱への道を行く政界	『自立・文化と緑化』8-10、1958年10月15日
イギリスの政党を見る	『世界週報』36-19、1955年7月1日
<b>III 国会、内閣、選挙、圧力団体</b>	
国会議員の本質と任務	『自立・文化と緑化』7-3、1957年3月15日
謀略的国会延長、クーデターに等しい	クーデターに等しい謀略的国会延長・議会政治は滅びる『毎日新聞』1958年11月5日
変則国会の教訓	『自立・文化と緑化』8-11、1958年11月15日
インナー・キャビネット論の批判	インナー・キャビネットへの疑問『読売新聞』1958年6月22日
混迷の政局を打開せよ	『自立・文化と緑化』9-1、1959年1月15日
政局は安定せず	『自立・文化と緑化』9-2、1959年2月15日
小選挙区制について	『選挙』11-10、1958年10月1日
参議院全国区制をどうするか	『市政』6-12、1957年12月15日
「地方」制の構想打出さる	『市政』6-11、1957年11月15日
地方選挙と社会党	『全労』9、1959年3月15日
地方選挙に望む	『自立・文化と緑化』9-3、1959年3月15日
公務員と政治活動	『市政』6-9、1957年9月15日
泥沼の勤評斗争	『市政』7-8、1958年8月15日
労組と教職員組合の新動向	『市政』6-8、1958年8月15日

圧力政治とサンディカリズム	『市政』6-6、1957年6月15日
岐路に立つ「中政連」	岐路に立つ中政連の方向『読売新聞』1958年8月3日
日本は競売品ではない	『日本海新聞』1959年2月18日
<b>IV 外交</b>	
日本のとるべき国際的進路	『新しい日本の進路』（勁草書房、1953年）
外交を党略の具にするな	『自立・文化と緑化』7-6、1957年6月15日
外交体制はこれでよいか	『自立・文化と緑化』8-3、1958年3月15日
日本の課題と希望	福祉日本を目指し「主義」の亡霊から脱せよ「日本の希望」『読売新聞』1959年1月5日

### 『民主社会を支えるもの』鹿島研究所出版会、1963年8月5日

<b>I 民主政治の理論</b>	
ドイツ国家学の展開と帰結—第二次大戦前夜のドイツ国家学を中心として—	『政治思想における西欧と日本 上』（東京大学出版会、1961年1月30日）
社会主義者のジレンマ	『新政経』107、1959年2月1日
新保守主義の勝利	『市政』8-11、1959年11月1日
日本民主政治の動向・私たちの使命	『新政経』117、1960年1月1日
政治論から見た福祉国家	『共済新報』1-1、1960年4月1日
民主政治を支えるもの	『講演』6、1960年7月15日
わが民主政治の実態	『海外事情』8-12、1960年12月5日
日本人の政治思想と政治行動	「公明選挙研究協議会の記録」1961年12月講演
<b>II 憲法</b>	
憲法記念日におもう	『中部日本新聞[夕刊]』1962年5月3日
憲法論議をめぐって	『警察雑誌』1962年7月
憲法第九条と自衛隊	『国防』11-14、1962年12月1日
憲法調査会の成果	『憲法論議をめぐって』1963年2月14日講演（於日本工業倶楽部第340回木曜講演会）
<b>III 国会</b>	
参議院のあり方と緑風会	『産経新聞』1959年5月20日
選挙後の参議院のあり方	『自立・文化と緑化』9-6、1959年6月15日
役員独占を強行するな	『読売新聞』1959年6月16日
対決ばやり	『大阪新聞』1960年1月11日
なぜもたつく”暴力排除決議案”	『東京新聞』1960年10月21日
国会正常化は話し合いから—副議長は第二党に—	『西日本新聞』1962年2月5日
参議院議員選挙の意義	『光と愛敬』29-5、1962年5月3日
<b>IV 安保審議をめぐって</b>	
安保改定をめぐる狂想曲	『日本海新聞』1959年4月13日
岸全権に与える	事前協議に「同意」確認を 批准は解散に訴えて「日米安保条約調印 岸全権に与える」『東京新聞』1960年1月16日
“安保審議”の正常化急げ	『東京新聞』1960年4月23日
議会政治破壊の責任とれ	『東京新聞』1960年5月21日
回避せよ参院の安保単独審議	『東京新聞』1960年6月8日
<b>V 外交</b>	
外交と野党	『自立・文化と緑化』9-4、1959年4月15日
外国の干渉を誘うな—外交論議のあり方	『東京新聞』1961年10月8日
<b>VI 政党</b>	
<b>その1 政党一般</b>	
党首の公選をめぐって	『市政』9-5、1960年5月1日
強健なる野党	『自立・文化と緑化』11-12、1961年12月15日
政党法について	『自治研究』38-2、1962年2月10日
政党の近代化	『文化と緑化』12-12、1962年12月15日
<b>その2 自民党</b>	
前途多難の改造内閣	『東京新聞』1959年6月19日
自民党脱皮の一指標	『読売新聞』1960年1月29日
醜い跡目争い—岸内閣は総辞職をためらうな—	『毎日新聞』1960年7月3日
池田内閣への注文	『毎日新聞』1960年7月19日
池田改造内閣に望む—“実力”は結構だが”勇み足”に警戒を—	『毎日新聞』1961年7月19日

施政方針演説を批判する	” 釈明調” の強い施政方針演説『毎日新聞』1961年9月29日
政局のカギは経済危機	『夕刊新聞』1962年1月1日
<b>その3 社会党</b>	
社会党の再建論争	『国内情勢解説』1959年8月10日
救えぬ人事争い	『産経新聞』1960年3月13日
社会党議員の総辞職	『北海道タイムス』1960年6月2日
崩れる社会党の「積極中立」	『夕刊新聞』1962年1月20日
<b>その4 民社党</b>	
民社新党発足と新しい政界	『選挙』13-3、1960年3月1日
<b>VII 選挙</b>	
総選挙の意義	『毎日新聞』1960年10月25日
選挙にどう臨んだらよいか	議会政治を確立するために『民主政治』31、1960年11月10日
選挙の健全化のために	『自立・文化と緑化』11-9、1961年9月15日
区制改正か定数は正か	『自立・文化と緑化』11-10、1961年10月15日
政党は勝手すぎる一公選法改正をめぐってー	『北海道新聞』『西日本新聞』1962年2月28日
「この一票」こう投じよう	『東京新聞』1962年7月1日
国民投票制の効用	『文化と緑化』12-10、1962年10月15日
<b>VIII 地方自治</b>	
地方政治のめざすもの	『市政』12-1、1963年1月1日
知事選挙あれこれ	『文化と緑化』13-2、1963年2月15日
<b>IX 教育</b>	
教育問題雑感	『自立・文化と緑化』10-3、1960年3月15日
学生の政治活動と大学の方針	『海外事情』8-9、1960年9月5日
人間形成の場としての私学	『私学振興』10-4、1961年8月31日
大学の管理について	『文化と緑化』12-11、1962年11月15日
<b>X 低開発国</b>	
動揺する東南アジア	『東京新聞』1960年12月31日
東南アジア教育調査報告	『文部時報』1003、1961年3月10日
民主主義とクーデター	『東京新聞』1961年6月14日
後進国と議会主義	『世界と議会』1-2、1961年7月15日
低開発地域への協力	『海外事情』11-1、1963年1月5日

### 『日本に遺す』鹿島研究所出版会、1968年4月30日

<b>I 民主政治</b>	
民主社会を支えるもの	『文部時報』1033、1963年9月10日
国家目的の喪失	『文化と緑化』14-2、1964年2月15日
世論の限界	『文化と緑化』14-4、1964年4月15日
日本人の政治能力	『文化と緑化』14-9、1964年9月15日
静かなる革命	『潮』56、1965年2月1日
現代の社会主義	『新政経』177、1965年6月1日
新しい政治の課題ー現実政治のヒズミを解消して健康で清潔な政治を	『公明』29、1965年2月1日
公務員と政治	『自治研修』61、1965年9月10日
未熟な日本の政治	『週刊時事』7-50、1965年12月11日
絶対病患者	『新政経』183、1966年1月1日
悪徳代議士事件に憶う	『文化と緑化』16-9、1966年9月15日
政治不信の背景	『経済復興』737、1966年11月27日
総選挙と今後の政局	『海外事情』15-4、1967年4月5日
腐敗政治の根源	『評論』1967年1月5日
<b>II 憲法</b>	
社会主義憲法について	『文化と緑化』13-6、1963年6月15日
最近の憲法問題	『海外事情』12-1、1964年1月5日
憲法で私は転向したー第九条(戦争放棄)を作ったのはマ元帥ではないー	『文芸春秋』42-5、1964年5月1日
憲法調査会の課題・その方向	『憲法問題』日本新聞協会、1964年6月15日
<b>III 議会・選挙</b>	
臨時国会と総選挙展望	『主張と解説』13-20、1963年10月15日
地方選挙覚え書	『文化と緑化』13-5、1963年5月15日
創価学会の衆議院進出	『文化と緑化』14-6、1964年6月15日

きれいな選挙の日本に	『PHP』200、1965年1月1日
知事や市長の多選	『時事通信 時事解説版』5815、1965年3月12日
普選四十年	『新政経』175、1965年4月1日
佐藤内閣と参議院選展望	『主張と解説』15-9、1965年5月1日
投票の消極主義	『時事通信 時事解説版』5897、1965年6月19日
選挙制度審議会の現況	『文化と緑化』15-9、1965年9月15日
比例代表加味の割合	『時事通信 時事解説版』5991、1965年10月8日
大きな争点のない選挙	『時事通信 時事解説版』6009、1965年10月29日
選挙は他人ごとではない	『PHP』217、1966年6月1日
選挙区制の改正案	『文化と緑化』16-5、1966年5月15日
<b>IV 政党</b>	
政党論二題－政党の法制化・近代化－	『海外事情』11-5、1963年5月5日
派閥解消への途	『文化と緑化』13-8、1963年8月15日
自民党组织調査会の答申について	『文化と緑化』13-11、1963年11月15日
新政界に望む	『文化と緑化』13-12、1963年12月15日
自民党の近代化	『文化と緑化』14-8、1964年8月15日
現代の社会主義政党	『文化と緑化』15-5、1965年5月15日
自民党の基本憲章	『時事通信 時事解説版』5779、1965年1月29日
緑風会の消滅	『時事通信 時事解説版』5809、1965年3月5日
社会党の派閥	『時事通信 時事解説版』5833、1965年4月2日
仕事のできる多数	『時事通信 時事解説版』5872、1965年5月21日
イギリス保守党の脱皮	『時事通信 時事解説版』5962、1965年9月3日
社会党議員の総辞職	『時事通信 時事解説版』5980、1965年9月25日
社会党内閣のビジョン	『文化と緑化』16-1、1966年1月15日
政党の政治資金	『文化と緑化』16-2、1966年2月15日
会社の政治献金	『経済復興』712、1966年3月17日
自民党への不潔感	『文化と緑化』16-8、1966年8月15日
国会解散と自民党	『経済復興』732、1966年10月7日
政党と政治－コンセンサスの観点から－	『国際時評』23、1967年3月1日
<b>V 国際問題</b>	
自主外交の前提	『文化と緑化』14-12、1964年12月15日
日本の政治に望む－静かなる革命の時代－	『新政経』172、1965年1月1日
多極化する世界	『新政経』172、1965年1月1日
東南アジアを想う	『文化と緑化』15-1、1965年1月15日
国防と政治家	『時事通信 時事解説版』5803、1965年2月26日
核と安全保障	『時事通信 時事解説版』5797、1965年2月19日
アジア外交の試練	『経済復興』675、1965年2月27日
為政者と国防	『文化と緑化』15-3、1965年3月15日
北方領土を忘れるな	『文化と緑化』15-8、1965年8月15日
平和主義と侵略主義者	『文化と緑化』15-8、1965年8月15日
日韓条約の常識	『時事通信 時事解説版』5985、1965年10月1日
安保の改定？	『時事通信 時事解説版』6043、1965年12月10日
安保条約の問題	『新政経』186、1966年4月1日
中共の国連加盟問題	『文化と緑化』16-4、1966年4月15日
ベトナムと全面戦争	『経済復興』717、1966年5月7日
防衛論議	『新政経』188、1966年6月1日
百家争鳴とコンセンサス	『文化と緑化』16-6、1966年6月15日
韓国警見	『経済復興』725、1966年7月27日
民族への信念と愛情を	『大陸問題』16-1、1967年1月1日
核拡散防止条約について	『文化と緑化』17-3、1967年3月15日
わが国の核政策について	『経済復興』749、1967年4月7日
恵庭判決に想う	『文化と緑化』17-4、1967年4月15日